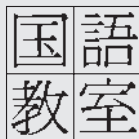


特集：令和時代に考える言語文化



October 2019
大修館書店 111

〈インタビュー〉中西進 聞き手：西一夫	
今に生きる言語文化	2

「君の名は。」と「言語文化」 藤森裕治	8
---------------------	---

日本語を組み直す 横山悠太	12
---------------	----

国語意識のこれまでとこれから 小沢貴雄	16
——「国語に関する世論調査」から平成を振り返る	

漢文から見つめ直す日本の伝統文化 李軍	20
---------------------	----

文学史を意識した古典指導 高野慎太郎	24
——新課程科目「言語文化」を念頭に置いて	

近刊のご案内 李白と杜甫の事典	32
-----------------	----

新刊のご紹介 三国志演義事典	34
----------------	----

〈アプリ・動画を活用した授業実践のご紹介!〉

「まなび動画」を活用した授業づくり 山本和貴	52
------------------------	----

～動画で深める学び～

校閲から学ぶ文章校正 岡崎美沙	55
-----------------	----

大修館書店の国語便覧・学習辞典のご案内 中面カラーページ

●連載	(新連載)		
	ことばでつながる百人一首	ピーター・J・マクミラン／奥村準子	28
	国語教師のための		
	古典文法指導講座③	自分の「名前」を「なまへ」に変換!	大倉 浩 36
	批評と鑑賞	多様性の擁護に向かうためのレッスン	構 大樹 38
		——宮沢賢治の作品という格好の題材	
	新人教師のための		
	漢文指導入門講座⑬	複合語・慣用表現を中心に	塚田勝郎 45
	展望 これからの国語教育	ちがう読みをすることの意味	石原千秋 49
	コトバのひきだし③	眉をしかめて風潮を論じる	関根健一 58

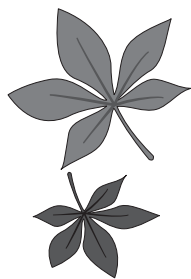
●コーナー	授業の提案	PBL型小論文授業	高橋伸明 41
		——協働×新聞×SDGs	
	えつらん室	宮沢賢治はなぜ教科書に掲載され続けるのか／「やさしい日本語」で観光客を迎えよう	60
		李白と杜甫の事典／三国志演義事典	
	国語のNews & Topics		62



〈インタビュー〉

国文学者、教育者

中西進



今に生きる言語文化

急速なグローバル化が進み、異なる国や文化に属する人々との関わりが、今後ますます重要となってくる現代。

このような新時代「令和」に生きる私たちが、今こそ見つめ直すべき「我が国の言語文化」とはどういったものなのでしょうか。

『万葉集』をはじめとする、日本の古典文学研究の第一人者・中西進先生に、じっくりとお話をうかがいました。

聞き手：

信州大学教育学部教授

にしかず お
西一夫

ことわざ、日本の聖典

——先生はしばしば日本語、つまり大和言葉の美しさや響きといったことをおっしゃっていると思いますが、まずはそういう点からお話したいだけないでしょうか。

現在の社会を見ていますと、非常に漢字偏重の傾向があると感じます。でも日本の伝統を考えますと、それはやっぱりあまり正しくない。

たとえば日本には、書物としてのバイブルってないでしょう。漢字を伝えてくれた中国には『論語』や『詩経』といった聖典がきちんとありますけれど、『古事記』や『源氏物語』も、やはり他国でいうところのバイブルとは違うと思います。じゃあ日本民族が伝統として伝えてきた聖典って果たして何なのかといえますと、私はことわざだと思っています。ことわざというのは、漢字に代表される書き言葉ではなくて、あくまでも古代の人々の話し言葉がもとになっていますよね。日本人が書き言葉としてではなく、口承伝承として今に至るまでずっと伝えてきた大切な聖典。そういうものとして私はことわざを位置づけています。



●中西進(なかにし すすむ)
『万葉集』をはじめとする日本の古典文学研究のほか、小学生に古典の面白さを伝える授業「万葉みらい塾」などの活動で知られる。著書に『万葉の秀歌』、『ひらがなでよめばわかる日本語』など。

日本の聖典が文字として、つまり証拠になるものとしてほとんど残っていないというのは、ちよつと頼りないような気もするかもしれませんが。しかし逆に言う、口から発せられた言葉が、わが国では証文と同じような働きをしてきたともいえます。そういう、書き言葉よりも話し言葉を大切にしてきたという言語的背景が日本にはあるから、われわれにとっては音声言語、くちびる言葉というものが、非常に大切になってくる。ですから、言葉が本来もっている響きとかイントネーションとか、そういう生きた感覚を教えるのが最も重要な言語教育だと思っています。

音読によって、言葉の響きを味わおう

——今回の学習指導要領でも、全校種で「音読」や「暗唱」という言葉が出てきます。やはり一生懸命声に出すことで、頭ではなく体に落とし込んでいくということが重要なんですね。

以前映画のシナリオを見せてもらったことがあるんですよ。私、台本にはイントネーションとか間合いとか、細かい指示も全部書いてあるんだろうと思っていたんです



が、実際に見てみるとあるのは台詞だけで、最低限の動きの指示しか書いていなかったで驚きました。つまり、私たちがテレビや映画で観る立体的な動きとか迫力とかは、俳優が台本から読み取った後に表現されているということです。それを見て、やはり書き言葉はただ視覚的に意味をもっているに過ぎないけれども、音声言語には細かいニュアンスとか呼吸とか声の響きとかがすべて含まれていて、無限の可能性があるということを感じました。

それは国語の教育でも同じで、教室で文章を黙読しているとき、人間の脳はごく限られた活動しかしていませんが、声に出して読むことで、脳の働きは劇的に変わりますね。少なくとも字を追っていたらいつの間にか寝ていた、なんていうことにはならない(笑)。だから黙読だけの学習というのは、本当に限られた生命活動でしかない。それが音読という活動を通して、われわれの言葉に関する意識が百パーセントに近い形で総動員されるという、この違いはそう簡単に見過ぎてはいけない問題です。そしてそれが、子どもたちの文章への解釈や理解にもつながっていくはずだ。

——先生の「万葉みらい塾」に参加した小学生の感想を読んでいますと、万葉歌の音読を通して「細かいことはわからないけど、歌われているのはたぶんこんな風景だ」と答えたり子どもが多いですね。それはやはり声に出すことによって子どもたちの中で言葉のイメージが広がって、歌の世界につながったんだろうと思います。

「万葉みらい塾」での主体的な授業

数学や物理などが典型的ですが、今の学

校ではまずは定理や公理といった一般的なもののから始まって、次に一つ一つのケースを考えていくという教え方が重視されてきたんだろうと思うんです。もちろん、それでうまくいく学問もあるでしょうが、しかしこれは人間の本能的な、自然な発想とは全く逆行しているということもまた事実です。たとえば赤ちゃん、近くにあるものを何でも触って、学習していく。生活全部がケースタディですよね。触ったり泣いたりというケースを一つずつ重ねていく中で、徐々にトータルなものがわかっていくというのが、本来の人間の営みであるはずだ。

私にこれを感じたのが、「万葉みらい塾」での授業です。この第一回目で、小学六年生の子供たちに和歌をテーマにした授業をしてくれと言われたんです。学校に行ったときに、校庭にチューリップの花が咲いているのが見えたので、私がまず「校庭にきれいに咲いた チューリップの花」と示して、上の二句を変えていってごらんと言ったら、みんなわいわい手を挙げてました。中には「午後六時 つばみにかえる チューリップの花」なんて言った子もいて、大変にびびりました。そしてこの二つの

歌をつなげると、「校庭に　きれいに咲いた
午後六時　つばみにかえる　チューリップ
の花」と、五七五七七の和歌が一つできま
すよね。和歌についての一般的な説明なん
てしないで、チューリップという一つの事
例をもとに授業をしたら、みんなおもしろ
がって和歌という全体を理解しちゃいまし
た。

——今のお話をうかがっていると、今回の学習指導要領で言われている「主体的、対話的で深い学び」ということは、すでに先生の授業で実現されているような気がします。

この「万葉みらい塾」は計六十六回やりましたが、最も成功したのは忘れもしない、ある学校でした。生徒たちが沸きに沸いて、大成功で終わったんですが、そのあとに校長先生と話していたら、「実はあのクラスは、二か月くらい前まで学級崩壊を起こしていた、誰も手がつけれなかったんですよ」とおっしゃったんです。それで驚いて、成功の理由は何だったのかと考えたんですが、結局は生徒たちに主体性・自主性を与えた、ということなんですよ。今、「対話」とおっしゃいましたが、私はもともと教えることなんてできないと思っていました。できるのは生徒との対話だけです。

れも常に生徒のほうから話を引き出すように、必ずつどんな質問にも向き合うようにしていました。

日本語の幅広さを感じる

——最初にことわざのお話がありました。今の生徒たちはことわざや故事成語などを、あまり日々の会話で使わなくなっている気がします。その点はどのようにお考えになりますか。

ことわざについては、文字言語か音声言語かというところで話をしましたけども、ことわざにはさらに「幅広さ」という特徴もあります。つまり、ひとつのことわざに対して、必ず反対の意味のことわざがある。たとえば「渡る世間に鬼はない」といった調子です。これは、ことわざがどんな場合にも役立つ言語体系なんだ、ということを示しています。こう言うときに、「ことわざには一つの思想がないということじゃないか」と言われることもありますけど、そうじゃなくて特定のイデオロギーやポリシーなんかを超えていく、力強い構造をもっていると言わべきです。その意味で、ことわざはあらゆ

る場合に、あらゆる人間に救いの手を差し伸べられるのですから、すごいことです。

こういう幅広さはことわざに限りません。先日録音の仕事をしていたら、業者の人が「優しい」という言葉が「恥ずかしい」という意味にもなることを初めて知りました、と言います。恥ずかしいと思う時には、自分がその瞬間とても優しくなっています。傲慢な人というのは、相手に対して自分が恥ずかしいと思わない人間のことですから。逆に恥ずかしいと思うからふるまいが優しくなるのです。そういうふうに、反対の意



西一夫（にし かずお）信州大学教育学部教授。
専門は日本古代文学・古典文学・古典文学教育。
大修館書店国語教科書編集委員。



味を考えればわかることがよくあります。同じことですが、みなさんは知らないうちに辞書に使われていませんか。辞書が挙げる①②③の意味のうちのどれに当たるか、などと辞書を見るのではなくて、①②③のすべてが、この言葉の意味だと考えるべきでしょう。それでこそ辞書を使っていることで、その反対では辞書に人間が使われているのです。

近頃、「令和」の「令」という字で、そう

いうことをよく言われましたよ。「令」の意味で、「②に『命令』と書いてあるから、これは悪い元号だ」と言うんです。「じゃああなたは命令されたら何でも言うこと聞くんですか」と言ったら、「いえ、いい命令は聞きますが悪い命令なら聞きません」と言う。じゃあ人を聞く気にさせるほどいい命令なんだから、「令」は本来いい意味ではないですか。これもやはり辞書に使われてしまっているんですね。そうではなく、「令」は善や、立派さや、「命令され、使役されるほどいいこと」を指す。この言葉が使われてきた全部の、もっと幅広い意味合いや歴史を背負っているものです。そういうふうに辞書を使ってもいいですね。

古典が好きになったきっかけ

——では最後に、古典についてうかがいたいと思います。先ほど「万葉みらい塾」で和歌などを楽しんで学んだという子供たちのお話がありました。現代では古典嫌いの生徒たちがとても多いようです。生徒たちが古典を身近なものに感じるには、どのようなことに心がければよいのでしょうか。

それについては私は、生徒だけでなく教える側の先生にもお願いしたいことがあるんです。それは教えるときに、「自分で鑑を着ていませんか」ということです。

たとえば、私は「中西さんはいつ、万葉を志したんですか」と聞かれたら、いつも高校時代のある先生のことを思い出すんです。その先生が『万葉集』の授業をしていて、「なんか質問ないか」と言った。でも誰も質問せず黙っていたら、先生が「お前たちには学習意欲がない」と言って怒りだしてしまった。仕方がないから私が手を挙げて、「今の歌に赤人とか黒人とかって名前が出ましたが、先生、これはどういう意味なんですか」と聞いたんです。すると先生は、「それは俺もわからん」とおっしゃった。その瞬間に私、その先生への信頼感がぐーんと増しました。後から調べてみたら、その先生は俳諧の専門家だったんです。だから専門的に勉強されていて、自信もあったはず。自信があったからこそ、「知らないことは知らない」ととても正直におっしゃれたんですね。そういう姿勢を示すことが最大の教育だと思います。だから私、その先生を今でも尊敬しています。その時の授

業から私は、国語や古典が好きになったと言ってもいいくらいです。

ですから、今現場でがんばっておられる先生方も、「自分は先生なんだから何でも知っていなくちゃならない」と鎧を着ないでほしいですね。それでは逆に生徒にとつて、古典への垣根が高く感じられてしましますから。人間ですから、知らないことはなんでもないんです。「知らないことがいけないんじゃない、知ろうとしないことがいけないんだ」という精神でいていただきたいものです。

自分を愛するように古典と言葉を愛する

そして、子供たちがどうすれば古典を好きになるかというお話ですが、それにはとにかく古典を自分のものとして、愛することが大事だと伝えたい。

たとえば『源氏物語』を読むと、なんで光源氏はこんなにも苦しむんだろうと思う。他の人物にしても、みんな愛を求めながら、苦しんで生きています。そして六条御息所のような人になりますと、もう完全に我々の条理を超えた、不思議なものが人間にはあるんだなあとということがわかりま

すね。そういう愛に関することとか、昔からずっと続いてきた、私たち人間に共通で普遍的なことが、古典には描かれています。その意味で、古典は決してガラスケースの中だけに保存しておくものじゃなくて、自分のこととして考えるべき、普遍的な価値をもったものです。自分のものだと思えば、自然と古典を大事にします。

そして、古典を愛するためには、まずは言葉を愛さなくてはいいけませんね。日本人は『万葉集』が編まれた時代から、大和言葉というものをずっと大事にしてきました。ギリシヤ語やラテン語などとは事情が全く違い、万葉の時代と現代とで、約七から八割は共通の言葉を使っているという、本当に特殊な民族です。千年以上の時代を経て、大切に受け継がれてきた言葉の尊さを、しっかりと感じる必要があります。

さらに言葉を愛するということをつきつめていくと、これは「自分を愛する」ということになる。言葉は人間が何かを認識するときの根本にあるのですから、それによって自分を見つめて、そこからその人の行動が発せられて、立派に生きたい、美しく生きたいというその人の生き方につながっ

ていきます。ですから、まずは言葉を愛することによって自分を愛する、自分の命や人生をもっと大事に見つめる。これが古典に親しんだり、古典を愛したりすること。この、根本の出発点になります。

——ありがとうございます。



(2019年8月11日。中西進先生が館長をなさっている高志の国文学館にて)



「君の名は。」と「言語文化」

ふじもりゆうじ
藤森裕治

信州大学学術研究院教育学系教授。
専門は国語科教育学。新学習指導要
領の新科目「言語文化」の設置にあ
たり中心的役割を果たす。著書に、
『にっぽんの図鑑』（監修）などがあ
るほか、NHK高校講座「国語表現」
にも出演。大修館書店国語教科書編
集委員。

■カタワレドキ

新海誠監督の映画「君の名は。」が記録的ヒットとなったのは記憶に新しい。心と身体が入れ替わった男女の物語は大林宣彦監督の映画「転校生」なども同様だが、この作品がこれほど多くの日本人に支持された背景の一つは、我が国の言語文化に基づく伝承や語彙、作品や信仰などが物語の随所に埋め込まれているところにあるようだ。

例えば作品のキーワードである「カタワレドキ」という言葉。彗星の断片すなわち「片割れ」の落下という歴史的事実を暗示するこの言葉はカタワレドキのもじりである。映画では国語の先生がタソガレドキと併せてこれに言及し、ともに「あの人は誰か」という問いかけであること、転じて往来ですれ違う人の顔が判然としない時間帯を意味することを解説している。我が国の文化伝統では、妖怪が出没し、奇怪な事件の発生する時間帯であり、芥川龍之介「羅生門」や中島敦「山月記」を始め、

日本文学の代表的な舞台設定の一つとなっている。

以下、新海監督作品「君の名は。」における言語文化的な素材を散策しつつ、新科目「言語文化」のイメージを展望してみたい。

■組紐と輪

「君の名は。」におけるキアアイテムは「組紐」である。作品では、組紐が主人公二人を結ぶ重要な媒体として登場し、その文化的背景として、女子高校生である「三葉」が組紐を伝統とする禰宜の系譜にあることが描かれている。岐阜県飛騨地方を舞台とした作品であることから推察するならば、これは祭神「菊理姫（キクリヒメ）」を祀る白山信仰からの連想と思われる。キクリとは、一説にククリの転訛と言われ、聖なる紐を組み結び、これを奉獻する神事によって神の加護を祈る信仰形態である。紐を結ぶことによって健康を祈る儀礼は全国各地にあり、例えば沖縄では引きつ

けを起こした子供を治癒させる呪術として、その子の腕を紐でくくる。これをマブイゴメと呼ぶ。

輪にした紐が靈魂や命にかかわる文化伝統の源流を古典に求めると、ただちに思い出されるのが式子内親王の名歌「玉の緒よ たえなばたえね ながらへば 忍ぶることの弱りもぞする」である。ここに詠われる「玉の緒」とは「我が命」のことであり、「玉」すなわち「魂」をつなぎとめる装置としての紐が靈魂と身体を結んでいる。

「結ぶ」という行為を「紐」から神話世界に広げると、『古事記』におけるイザナギ、イザナミ国生み神話が想起されよう。天御柱を回ることによって結び合い、様々な国と神を生んだエピソードである。

この神話にある柱と回転が命を生むという観念は、昭和初期ぐらいまで各地にあった嫁たたく行事を連想させる。スルデの木などにらせん状の模様を付け、これを手に新婚女性の尻をたたいて安産を祈る行事である。この古い記録は『枕草子』第三段の正月十五日の記事にあり、女房たちが粥の木を後ろ手に隠して若い女性に近づき、尻をたたき無礼講がおもしろおかしく描かれている。

回転といえば、今日の日本で輪をなす行為が最も顕著な行事は盆踊りであろう。盆踊りの起源は中世の念仏踊りと考えられているが、それとは異なる系統を持つ夏の

輪踊りは各地にある。沖縄県竹富島のアンガマ踊り、鹿児島島の十五夜ソラヨイ、東海地方の鹿島踊りなど、いずれも人々が輪になって踊り歌いながら祖霊と交信し、死者の靈魂を慰め、今を生きる人々の健康と安全を祈る。このように、我が国の言語文化にはその基層部分を貫く特質と要素があり、それらは古代から現在にいたるまで、無意識のうちに人々の生活や信仰のありかたに深く影響を与え続けている。「言語文化」とはそういう要素を持った素材に親しみながら、日本語が今日まで継承してきた文化とは何か、その文化を持つ日本人とは何かといった問題について考えをめぐらす科目である。

■アヲの象徴性

新海監督による映像作品の中で、最も印象的に描かれているのは、空である。彼の作品に登場する空は、深い青を基調にして、金や橙、紫などが虹のように広がっている。この色彩にも、言語文化の象徴性が見て取れる。

新海氏によれば、彼が描く空の情景は、氏の故郷である信州佐久地方で過ごした晩秋の記憶がもとになっている。それは、彼が通っていた高校から小海町の実家への帰り道の風景である。黄昏時、八ヶ岳に沈んだ日輪の残照が浅間山の東に広がる濃紺の空に光彩を放つ。うねり流れる千曲

川の水面が光を失う頃、蓼科の山際に宵の明星が白く輝き出す。高原の夕空が描く美しい色彩は、家路を急ぐ新海氏の足を、幾度となく停めたに違いない。

周知のように、日本語における色彩語の基本は青・白・黒の四色で、この四色のみがそのまま形容詞となる。黄色や紫も文化論的には深い意味を持っているが、右の四原色が彩る根源的な世界観とは、比較にならない。

これら四色は東南北北の方位を象徴し、それぞれ青龍・朱雀・白虎・玄武という神獣として具象化される。同時にこれらは春夏秋冬の四季をも表し、春宮をトウグウと呼ぶゆえんをなす。このうち、新海作品の象徴的な色彩である空の青は、アヲという語彙を構成する色彩の一つである。こうした色彩による世界観は、古代中国文化の影響を濃厚に有し、日本固有のものとは言い難い。ただし、アヲとは文字通りの青だけでなく、褐色や緑といった暗色系の色彩を総称する我が国独自の観念を下地にしている。今日でもつやつやとした毛並みの若駒、信号機の「進め」をアヲと呼ぶ伝統が、その証左となっている。

暗色系の色彩を総称するアヲには、未成熟で生死の境界を流動する存在への文化的意味が埋め込まれている（北沢方邦『日本人の神話的思考』講談社現代新書、一九七九年）。その最も代表的な語彙が「青春」である。『徒然

草』でも指摘されているように、若い者は向こう見ずで命知らずな気質を持ち、傷つくことを顧みず、情動のおもむくまま、感受性豊かに今を全力で生きようとする。

充滿する生のエネルギーをもてあまし、その発散すべき方向性が定まらない存在をアヲと象徴するなら、対照的な色彩はシロになる。穏やかで物事に動ぜず、諦念をもつて巨視的に世界を俯瞰する生き方は老成した者の姿である。これを筆名に選んだ文人が北原白秋であった。

アヲが持つこうした意味表象を踏まえて現代文学を探索すると、村上春樹の短編「青が消える」は、文字通りこの色彩が象徴する意味を遺憾なく発揮した名品と言える。ある日突然、世界から青という色彩が失われたという設定で展開するこの作品が暗示するものは、変化と流動という要素が人生から奪われた時に襲い来る絶望である。青とは単なる色相環の一つではなく、不安と期待に満ちた未来を構成する原理なのだ。言い換えれば、我々を未知の世界にいざなう「時間」が青の意味するところなのである。その消失がいかに深刻で恐ろしい事態か、主人公しか気付いていないところに、この作品の寓意がある。ちなみに青を基調とする「君の名は。」でも、時間の位相は設定上の一大特徴だった。

■「とりかえばや物語」と「君の名は。」

冒頭で述べたように、「君の名は。」は男女の意識が入れ替わるという設定で物語が展開する。この設定を着想する際、新海氏は鷗外や芥川が試みたように、原型となる作品を古典に取材している。言わずがな「とりかえばや物語」である。この作品が試みた男女の魂の入れ替え譚を、新海氏は現代のファンタジーへと翻作しているのである。

言葉は本来、それが示す対象と示さない対象のあることを前提にした記号である。その中でも、男と女、生と死、災害と豊穡などの語彙はトレードオフすなわち両立しない関係にあり、しばしば両者はプラスとマイナスのイメージに分かれる。この境界を乗り越え、対立関係にある両者を合体または交換してしまおうという実験が「とりかえばや物語」であり、「君の名は。」なのである。日本の言語文化は、こうした実験を歓迎する傾向を持っているらしい。

なぜ、相矛盾する意味を合体・交換することを歓迎するのか。その要因の一つは、日本の言語文化がアニミズムの要素を濃厚に持っていることによると筆者は考えている。万物に靈魂の存在を感じ、これを人事に見立てる伝統は、我が言語文化の一大特徴である。朝露や桜花に人生の儚さを見、廃棄する愛用品を供養する習俗が好例である。

こうした伝統をもって自然界の事象を見つめると、海や

山に大いなる意思が存在することを我々は疑いなく感じることが出来る。そして、それらが人々に恵みを与えもし、命を奪いもするを知っている。この実感が日本文化の基層部分にあり、我々の精神を二元論的な世界から両義的で多層的なそれへと昇華させているのである。

このように、「君の名は。」をもとに散策してきた素材はすべて、長い歴史が醸成してきた言語文化の結晶である。同時に、それらは現代の言語文化を担う人々によって継承され創造され続けるべき、基層的な世界観を内包する。

そうした視点をもって対象を観察し、言語化すること。また、そうした認識をもって古典から現代に至る言語作品を理解すること。これが新科目「言語文化」における見方・考え方の素地をなす。「言語文化」は、古典や現代文学・評論などを素材にして、未来の言語文化の担い手となる若者たちに、誇りと自信を与える科目なのである。

最後に余談を記して結びとする。

本稿を執筆する前、本誌編集部では筆者と新海誠氏との対談を企画していた。残念ながら今回は、実現はかなわなかった。そこで本稿では、氏と対談することになったら投げかけるつもりだった話題を軸に構成した。ちなみに、氏と筆者とは、長野県野沢北高等学校の同窓生である。



日本語を組み直す

よこやまゆうた
横山悠太

作家、日本語教師。十年間中国に暮らした経歴を生かし、これまでの日本語の枠にとらわれない新たな表現を開拓する。主な著書に『吾輩ハ猫ニナル』『唐詩和訓』『小説ミラーさん』など。

■翻訳が生んだ表記

「本気」と書いて、「マジ」と読んだりする。

そう読ませたいときは、ルビを用いて、「本^{マジ}気」と表記することができる。だから何だと言われるかもしれないが、私はこの日本語のルビというものを常々愉快に思う。

こういったルビは、明治期の小説にも散見された。例えば、夏目漱石の『吾輩は猫である』をばらばらとめくっただけで、「平生」「白襟」「了る」「故意とらしい」といった読み方が目に入る。このようなルビの振り様を味わうのも、私にとっては読書の楽しみの一つだ。

中国語の勉強が楽しかったのも、その延長のような気分であつたからかもしれない。先ほどの『吾輩は猫である』にも見られる「埃及」「波斯」などの音訳語は今ではほとんど目にしないが、本家の中国語では今も普通に使用されていたりする。また、「優衣庫」「可果美」「三得利」の正体が「ユニクロ」「カゴメ」「サントリー」であつた

りする。前の二つは響きだけでなく、字のもつ意味もその企業イメージに合致しているのだ。

そしてある日、ふとこんなことを思いついた。「中国語を日本語に混ぜ込んだ文体で小説を書いてみたら面白いんじゃないだろうか」と。それで私が書き上げたのが、『吾輩ハ猫ニナル』（講談社刊）というパロディ小説だった。

彫りの深い伊斯蘭系の青年が、一方の手で手機を弄りながら、もう一方の手で羊肉串を烤いている。

とこんな調子だ。それはいかにもヘンテコな文体に思われるかもしれない。しかし、今の日本語だって、表記に関していえば、古代の中国語の変形体である。もつと言えば、ひらがなとカタカナの成り立ちも、漢字のくずし字、漢字の一部、というように、中国の字から生まれたものだ。

私はこの文体を紡いでいくために、

一、この漢字をどう読むか

二、このコトバにどんな漢字を当てるか

という双方向の翻訳を繰り返し行った。ただ闇雲に中国語を入れ込むのではなく、読者が読みやすいように、バランスを考えて推敲を重ねた。

この過程のなかで、ちよつと大袈裟な言い方かもしれないが、私は知らぬ間に日本語の核心コアの部分に触れたように思えたのである。

日本語には元来、文字がなかった。そして、漢字が伝来してきたことで、はて、どうやってこのコトバを表記しようか、という課題が生まれた。そこから日本語表記は現代に至るまで、連綿と先ほどの双方向の翻訳が行われてきたのではないだろうか。古事記の文体にしても、論語などの漢籍をどう読むかにしても、そのような運動が原理として働いていたのではないだろうか。私の偏った日本語観かもしれないが、日本語とはこういうものだったか、とひとり納得したのである。

■訓読は邪魔物？

次は、訓読にまつわる話をしたい。

訓読は漢文を読むために使われた方法で、日本語の形

成にも多大な影響を及ぼしたものだ。漢詩の鑑賞では、今でもこの訓読が欠かせないと思われる。しかし、現代人にとって訓読はすでに縁遠く、よって詩の意味を理解するには現代語訳に頼らざるを得ない。漢詩の本には、原詩、訓読（書き下し文）、現代語訳だけでなく、語釈や解説まで併記されていることが多い。丁寧なのは良いが、情報量が多すぎるために、かえって鑑賞の妨げになっているように思える。

詩なのだから、もっとシンプルに、ダイレクトに鑑賞できないものか、従来とは違う方法で漢詩にアプローチ

欲	忘	忘	未	得
わすれようにも	わすれられない			
欲	去	去	無	由
あいにゆくにも	ゆくすべもない			
兩	腋	不	生	翅
そらとぶための	つばさもなくて			
二	毛	空	満	頭
ただいたずらに	しらがをふやす			

▲「寄遠」
(原詩は律詩。ここでは後半の四句を省略した)

できないものか。こういう動機で、『唐詩和訓—ひらがなで読む名詩100』（大修館書店刊）を書いた。この本では唐詩にひらがなの平易な訳詩を付して紹介している。主に和語を用いるひらがな訳は、距離を感じてしまう訓読に比べて、寄り添うような親しみやすさがあるかと思う。例として白居易の「寄遠」を前ページに載せた。ちなみに訓読では冒頭の二句をこう読む。

忘れんと欲するも忘るること未だ得ず
去らんと欲するも去るに由無し

ちよつと無理のある補助線を強引に加えたようなものが訓読だとすれば、このひらがな訳は原詩を光にかざし、ひらがなしか映らない四角形の板に投影させたもの、といったイメージだろうか。

私はこの本が出来上がるまで、訓読を諸悪の根源のように思っていた。（あるいは、気味の悪い亡霊のように。）中国語もある程度できるようになっていたので、なおのこと訓読は意味のない時代遅れなシステムに思えた。だから、できれば本に訓読を載せなくなかった。しかし、編集部側の意向もあり、結局は下に小さく載せることになった。校正のたびにいやいや読ませられるはめになり、

辟易していた。

ところが、これがだんだんと好きになってきたから不思議だった。よく言われるように、訓読は声に出すと勢いやリズムがあつて心地よい。詩の意味も自分で訳したものだから、すでに頭に入っている。そういう状況であれば、訓読も悪くないと思った。訓読は歴史的に格調高いものとされ、それゆえに気取った印象もあつて好きではなかったが、この格調高さが詩語としてうまく作用していることにも気づいた。

正直なところ、私にはまだこの「訓読」が何たるものか、つかみきれていない。今後改めて、探求してみたい。

■外国人に教えるとき

最後になるが、私は普段、中国人留学生に日本語を教えている。日本語を教えるとき、いわゆる国文法は使わない。五段活用は「1グループ」、上二段・下一段は「2グループ」、カ変・サ変は「3グループ」といったりする。連用形は「ます形」と「て形」の二つに分けて呼んでいる。「行きます」と「行つて」、「歩きます」と「歩いて」のように、「ます」と「て」の前の活用形が異なるので、学習者にわかりやすいように、このような呼び名で区別しているのだ。

日本語教師で大変なことを一つ挙げるとすれば、それは教室で使う日本語レベルのコントロールだ。例えば、テキストの第5課を教えるときは、第4課までに教えた単語や文法をもとに教えるのが基本だ。これをクラスごとに行わなければならない。

教材についても同様で、日本語に限らず、語学を学ぶ者にとって、レベルに合った読み物があるとうれしい。英語であれば、そういった読み物は豊富にあるが、日本語学習者向けのものは、まだそれほど多くはない。そこで私は、いつも使っている教科書『みんなの日本語』の登場人物であるマイク・ミラーというアメリカ人を主人公にした、初級学習者向けの小説にチャレンジした（『小説ミラーさん』スリーエーネットワーク刊）。初級の文法しか使えないという縛りでどこまで書けるか心配だったが、意外にけっこう書けた。ここに一部を引用する。

「いすが動きますよ」

と女の人は言^いって、ボタンを押^おした。いすが横^{よこ}に長^{なが}くなって、僕の体^{からだ}がゆっくり倒^{たお}れた。

それから女の人は、シャンプーを始^はめた。

あれ？ 僕は「カット」と言^いったんだけど……。

「かゆい所はありませんか」

女の^{おんな}人^{ひと}が僕の髪^{かみ}を洗^{あら}いながら聞^きいた。

「かゆい」ってどういう意味^{いみ}だろう？ 僕はこ^{ぼく}の

ことばの意味^{いみ}を知らなかった。「い」で終^おわるから、たぶん形容詞^{けいようし}だと思^{おも}うけど……。

「十二 髪^{かみ}を切^きる」より

日本語教師という仕事を通して、また初級の日本語のみで小説を書くという経験を通して気づいたことは、普段自分が、どれほど無意識に言葉を発しているかということだ。教室では、想定外の質問が飛んでくることもしばしばある。即座には答えられず、教師の宿題と言^いってその場を逃^にれることも少なくない。日本語教師とは、日本語をもう一度学び直す職業なのだ。

以上、「日本語を組み直す」三つの試みについて、（ちゃっかり自著を絡めて）紹介した。この文章で言^いいたかったのは、さまざまな角度から日本語を見つめ、あるいは自分なりに加工し、戯^{あそ}れあってみると、様々な発見があつたり、日本の言語文化を改めて新鮮な気持ちで捉^とえられたりする、ということだ。その上で大事なものは、自分がいま用^{もち}いている日本語を絶対視^{ぜったいし}せず、歴史の流れを踏^ふまえつつ、相対的にながめてみることに思^{おも}う。



国語意識のこれまでとこれから

「国語に関する世論調査」から平成を振り返る

小沢貴雄

文化庁国語課専門職。元都立高校教員。文化庁による「国語に関する世論調査」の運営に携わる。共著に「主体的・対話的で深い学びを促す中学校・高校国語科の授業デザイン」など。

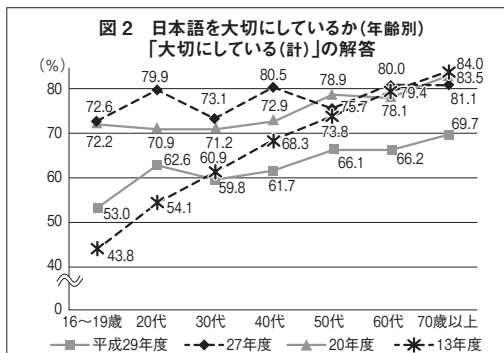
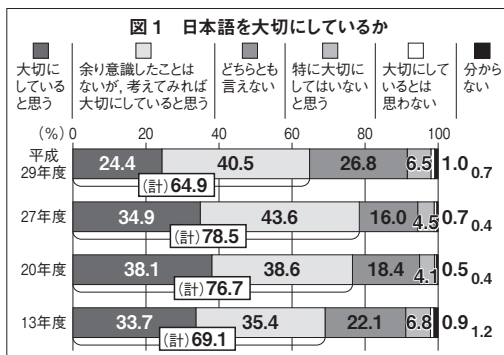
■はじめに

「国語に関する世論調査」は、文化庁で平成7年度から毎年実施している調査で、16歳以上の男女3千人を対象としています。国語・日本語について、一般の方々がどのように考えているか、平成29年度調査を中心に御紹介します。文化としての言語を考える上でのヒントになるかもしれません。

■日本語を大切にしているか

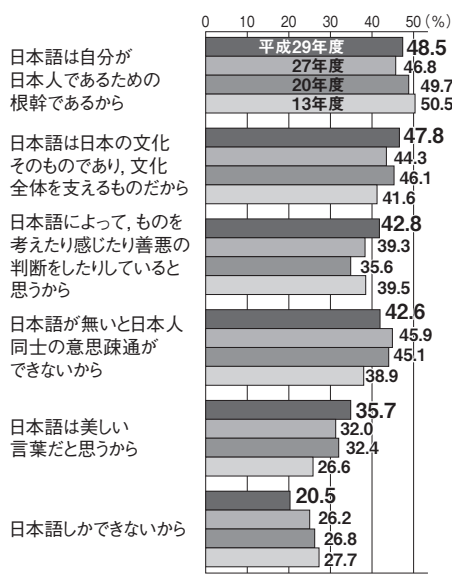
毎日使っている日本語を大切にしているか、それともそうはしていないかを尋ねました(図1)。

「大切にしていると思う」(24・4%)と「余り意識したことはないが、考えてみれば大切にしていると思う」(40・5%)を合わせた「大切にしている(計)」は64・9%となっています。一方、「大切にしているとは思わない」(10%)と「特に大切にしているとは思わない」(6.5%)を合わせた「大切に



切にしている(計)」は7.6%となっています。過去の調査結果(平成13、20、27年度)と比較すると、「大切にしている(計)」は13年度調査から27年度調査に掛

図3 「大切にしている(計)」の理由(三つまで回答)

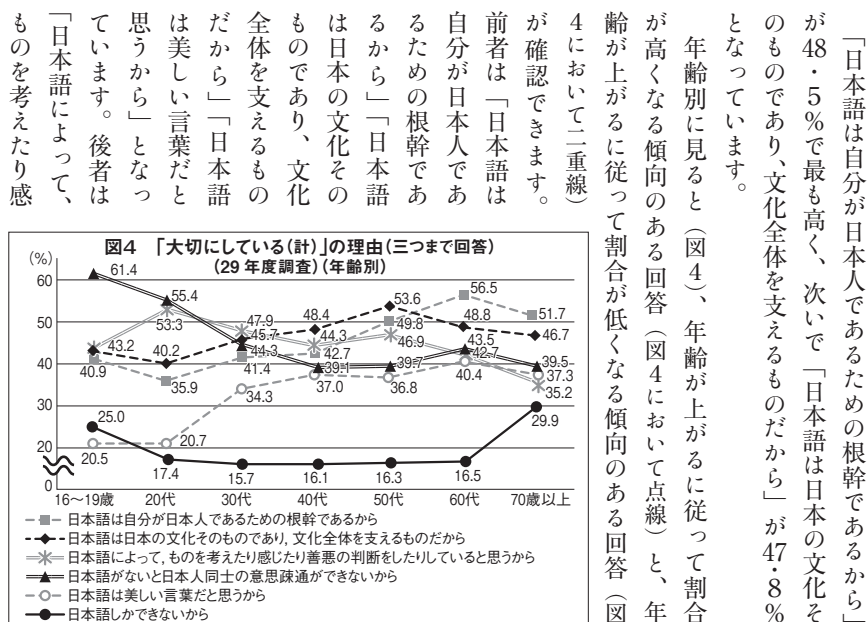


けて増加傾向にありましたが、29年度調査では27年度調査より14ポイント減少しています。

「大切にしている(計)」の回答を年齢別に見ると(図2)、いずれの年度の調査においても年齢が上がるに従って割合が高くなる傾向があるということが分かります。

■日本語を大切に思う理由

日本語を「大切にしていると思う」「余り意識したことはないが、考えてみれば大切にしていると思う」と答えた人(全体の64・9%)に、大切にしている理由を尋ねました(選択肢の中から三つまで回答)(図3)。



じたり善悪の判断をしたりしていると思うから」「日本語がないと日本人同士の意思疎通ができないから」となっています。

日本語の文化的側面や日本語の美しさなどの側面をもって大切に思っている人は、年齢が上がると多くなる傾向があり、日本語のツールとしての側面をもって大切に思っている人は、年齢が下がると多くなる傾向があるということが分かります。

■書き言葉と話し言葉についての意識

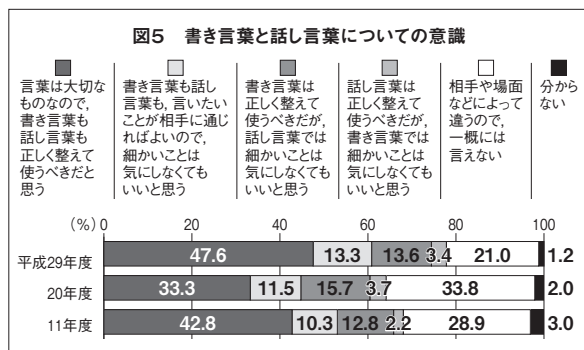
日常生活の中で、書き言葉や話し言葉の使い方はどうあるべきだと思うか、五つの考え方を挙げて、どの考え方に近いかを尋ねました(図5)。

「言葉は大切なものなので、書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべきだと思う」(以下、「書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべき」という。)が最も高く47.6%となっています。一方、「書き言葉も話し言葉も、言いたいことが相手に通じればよいので、細かいことは気にしなくてもいいと思う」(以下、「書き言葉も話し言葉も細かいことは気にしなくてもいい」という。)が13.3%となっています。また、「書き言葉は正しく整えて使うべきだが、話し言葉では細かいことは気にしなくてもいいと思う」が13.6%となっているにもかかわらず、「話し言葉は

正しく整えて使うべきだが、書き言葉では細かいことは気にしなくてもいいと思う」が3.4%と10ポイントも低い結果となっています。

過去の調査結果(平成11、20年度)と比較すると、「書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべき」は、11年度調査から20年度調査に掛けて10ポイント減少しましたが、20年度調査から29年度調査では14ポイント増加しており、29年度調査でも高い割合となっています。

年齢別に「書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべき」と「書き言葉も話し言葉も細かいことは気にしなくてもいい」を見ると(図6)、「書き言葉も話し言葉も細かいことは気にしなくてもいい」は過去の調査と比較しても余り変化は見られませんが、一方、「書き言



言葉も話し言葉も正しく整えて使うべき」は、11年度調査から29年度調査に掛けて、40代以下では5〜17ポイントも増加しています。

書き言葉に対しても話し言葉に対しても、全体的に規範意識が高まっていますが、特に若い世代を中心に、言葉に対する厳格さの高まりが見られます。

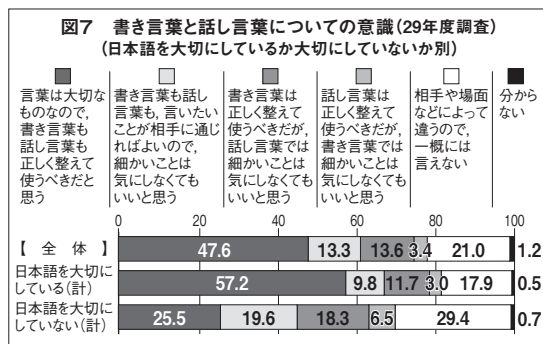
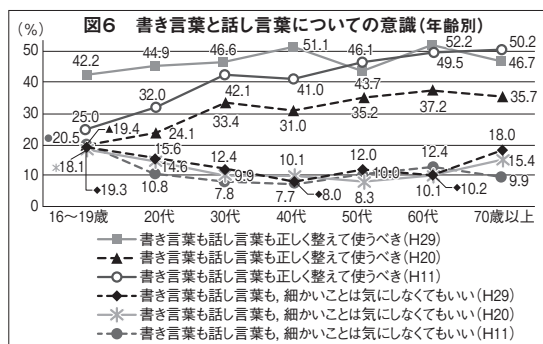
さらに、日本語を大切にしているか大切にしていないか別に見ると(図7)、「書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべき」では、「日本語を大切にしている(計)」と答えた人で57・2%となっており、「日本語を大切にしている(計)」と答えた人(25・5%)を30ポイント以上も上回る割合となっています。一方、

「書き言葉も話し言葉も細かいことは気にしないでいい(計)」では、「日本語を大切にしている(計)」と答えた人で19・6%となっており、「日本語を大切にしている(計)」と答えた人(9.8%)を10ポイント上回る割合となっています。

当然の結果ではありますが、日本語を大切に思っている人ほど、書き言葉も話し言葉も正しく整えて使おうとする意識が高いということが分かります。

■終わりに
書き言葉において、かつては制限なく多くの漢字

を用い漢字片仮名交じり文で書き表していたこともありましたが、しかし現在は、一般に使用する漢字の目安を定め漢字平仮名交じり文による書き表し方が安定しています。百年後も同じように国語・日本語の書き表し方が安定しているのでしょうか。文化としての言語に対する意識は世代によって差の見える面もあることが分かりましたが、文化としての言語の持つ意味を各々が自分なりに捉え、考えていく時代に入ったのかもしれません。





漢文から見つめ直す 日本の伝統文化

李^り軍^{じゅん}

早稲田大学教職大学院講師。専門は国語科教育。著書に、『日中漢字文化をいかした漢字・語彙指導法』『覚える』から『考える』へ、『実践国語科教育法』『楽しく、力のつく』授業の創造（共著）などがある。

■はじめに

「松林図」（長谷川等伯）という日本の名画がある。この絵画には、様々な白や空白が使われている。原研哉は評論「空白の意味」（『白』中央公論新社、二〇〇八）所収）で、この「空白」について「精緻な描き込みを意図的に回避することで、逆に見る側のイメージを活性化させ、描かれていない部分に、見る側の活発なイメージの生成を呼び起こす」と解説し、「何も無い空白に細密な描写以上の豊かなイマジネーションを見立てていく」という日本の美意識を指摘している。この「空白」によって醸し出される日本の美意識は、絵画だけでなく、華道、茶道、日本庭園の「空間」や邦楽、能楽の「間」など日本の伝統文化、伝統芸能にも現れている。

「空白の意味」では、「松林図」の作成背景について「中国絵画の精華、南宋の水墨画の遺産を引き継いでいる。（中略）『精緻』と『朦朧』を交錯させ、もののリアリティ

や構造の再現ではなく、茫洋とした余白、すなわちイメージの解放区を紙面に展開したのが南宋画。（中略）余白／空白は、等伯の松林図においてはつきりと主題として開花し、絶妙に結晶している。」と説明している。

このように、日本の伝統文化の根底に、中国の伝統文化の精髓が流れている。しかしそれは、中国の文化、思想、世界観などをそのまま受容しているわけではない。日本の風土や日本人の意識、感性に合わせて日本らしくアレンジし定着させた「和の文化」でもある。

自然を敬い、自然とともに生きていく世界観は、日本人の精神性の基底部をなしている。一方、古代中国の「道家思想」では、「無為自然（人為的なものを排除し、自然のままを尊ぶ考え）」を提唱している。本稿では、「道家」を代表する老荘思想の「無用の用」と評論「空白の意味」を比較し、両者の相違点を踏まえて、日本の伝統的な言語文化を見つめ直す授業構想を提案する。

■授業の概要

この授業は、『国語総合』の「漢文編」の導入として位置づける。漢文は日本の伝統的な言語文化の礎であることに気づかせ、漢文学習の意義を理解させることが目的である。

○指導目標

- ①「空白の意味」の内容を理解し、「空白／余白」から感じ取る日本の美意識や伝統文化について考える。
- ②老荘思想における「無用の用」の内容を理解する。「無用／有用」に隠されている老荘思想のものの見方や考え方を吟味し、それらの今日的意味について考える。
- ③「空白の意味」と「無用の用」を比較する。両者の相違点を明らかにし、日本の伝統文化の特徴を理解する。
- ④「空白の意味」と「無用の用」から学んだことを今日の出来事に生かし、自分の考えを広げ深める。

○単元計画（2時間配当）

第1時

【導入】

- ①長谷川等伯の「松林図」と京都の竜安寺の石庭の写真を見比べて、それぞれの特徴と共通点について考える。

【展開】

- ②評論「空白の意味」を配布する。「空白の意味」の内

容を理解した上で、その要旨をまとめる。

- ③4人班を作る。評論文の冒頭にある「空っぽの器には何も入っていないが、これを無価値と見ず、何かが入る『予兆』と見立てる創造性がエンプレティネスに力を与える。」について、各自で考えた上で話し合う。
- ④「何もない空白に細密な描写以上の豊かなイメージネーションを見立てていく」「描かれていない空白地帯を情報のゼロ地帯とは見なさない」とは何かについて、日本の美意識という観点から、班内で説明し合う。
- ⑤「空白」について感じたこと、理解したこと、疑問に思ったことを話し合い、班ごとにまとめ、発表する。

【まとめ】

- ⑥全体の意見を整理し、まとめる。
- ⑦『国語便覧』における中国思想の「諸子百家」「道家」「老荘思想」の内容を予習するように伝える。

第2時

【導入】

- ①前時の内容を振り返り、「空白／余白」「無」の意味や日本の美意識を再確認する。
- ②「道家」や「老荘思想」に関する予習内容を確認し、「老子」「莊子」の考え方について生徒に説明させる。

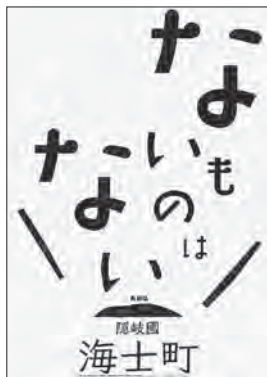
【展開】

③ 漢文「無用の用」(『老子』第十一章)を配布する。「無用の用」では、車輪の中に空間部があつて、車輪のスポークがそこに集まるから車の働きをする、器や部屋に空間部があるからそれぞれの役割を果たす、といった例を挙げ、「形のあるものが役に立つのは、形のない部分(空間部)が働きをしているからである」と結論づけている。

④ 「無用の用」の内容を理解した上で、各班でその内容を論理的・批判的に読み解き、意見交換を行う。

⑤ 「無用の用」における「器」の「空間部」と、「空白の意味」における「空っぽの器」の「空っぽ」の意味(役割)を対比し、それぞれの「空白」「無」に対する認識の相違点を分析し、意見交換を行う。

⑥ この単元で学んだことを生かし、鳥根県隠岐郡海士町のPRポスターのキャッチコピー「ないものはない」の意味や込められた思いについて話し合い、発表する。



海士町のPRポスター

【まとめ】

⑦ 単元を総括する。日本と中国の認識の底層の中に時代を超えて共通する部分が存在していることや、中国からの影響を受けつつも、日本独自の伝統文化や美意識を築き上げていったことを再確認する。

○授業の解説

「無用の用」では、「無用」と「有用」は対立しつつも、一つの総合体の中に内包され、相互に作用し補完することとで、はじめてその総合体が「有用」になるという道家の価値観と世界観が見られる。

『老子』(第二章)には「有無相生じ、難易相成り、長短相形はれ、高下相傾き、音声相和し、前後相随ふ。」というくだりがあり、物事の相対性を説いている。また、『莊子』(齊物論編)には「不言之弁」「不道之道」という表現も見られ、「無用の用」と同工異曲である。「不言之弁」は「不言の言」と同じで、言わないことがそのまま言うことになるという意で、「不道之道」はこれが道だと限定できないものこそ道であるという意味である。日本語にも「言わぬが花」「便りのないのは良い便り」という「無」の有用性を語る諺がある。

一方、「空白の意味」においては、絵画に「空白／余白」があるからこそ、見る側に様々な想像の空間を与え、形

のある何らかの「有」より無数の可能性を孕む「無」の
ほうが豊かである、そして「空白／余白」は「無」とし
て存在するのではなく、その象徴的・創造的な意味合い
こそが日本の美意識の重要な一端を作っていると論じて
いる。

「無用の用」と「空白の意味」では、それぞれの認識
の着眼点や認識の仕方が異なっているものの、「空白」
「無」に価値や役割を見出す点においては共通している。

「無」に価値を見出し、そこから豊かさを感じ取る
という認識は、海士町のPRポスターにも現れている。海
士町のホームページでは、「ないものはない」の意味に
ついて「①無くてもよい。②大事なことはすべてここに
ある。」と解説している。モノが溢れ、便利な暮らしに
慣れた都会人にとっては、離島の海士町は不便で、何も
「ない」ように見えるが、「ないものはない」という言葉
は、島の良さと豊かさについて気づかせてくれる。授業
の最後に、目に見える人工的物質的な豊かさを目に見え
ない自然の豊かさを比較し、「本当に大事なこと」とは
何かを議論しつつ、この授業で学んだことを振り返る。

○指導上の留意点

①「空白の意味」では「白」という色彩に焦点を当てて
述べられているが、ここでは、「無用の用」と比較す

るために、「空白」の「空」「無」に着目するように指
導する。

②現代文と漢文の比較を通して、伝統的な言語文化は断
片的なものではなく、連続的に培われてきたものであ
ることを理解させる。

③協働学習を行う際に、個々人が自分なりの考えを持っ
ておく必要がある。グループ活動に入る前に、個人が
考えたり作業したりする時間を設ける。

■おわりに

電子機器の普及やICTの発展に伴って、視覚情報が
増える一方である。情報だけでなく、知識や理論、思考
まで可視化されるようになり、分かりやすくなった反面、
大切なものが失われつつあるようにも思える。

「空」「無」から学習者の想像力や感性を培い、その中
で日本の美意識や伝統的な言語文化を味わっていく。そ
ういった逆転の発想を育みたい。

【主要な参考文献】

- ・江連隆・塚田勝郎（一九九九）『漢文名作選〔第2集〕 1古代の
思想』大修館書店
- ・大濱皓（一九六六）『莊子の哲学』勁草書房



文学史を意識した古典指導

たかの しんたろう
高野慎太郎

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校教諭

—新課程科目「言語文化」を念頭に置いて

■はじめに

高等学校における新学習指導要領の実施を控え、多くの学校で教育課程編成等について議論が交わされていることであろう。ここでは、新設の必修教科目である「言語文化」を念頭に置きつつ、古典教育によって生徒が「我が国の言語文化への理解」を深めるための授業について、稿者のこれまでの実践も踏まえて述べてみたい。

■問題の所在

そもそも「言語文化」という科目が新設される背景には、次のような課題意識が前提となっている。

古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらない（高等学校学習指導要領（平成三十年告示）解説国語編「8頁」）

つまりは、「古典を学習する意味が分からない」「古典はつまらない」という生徒たちの声に応え、古典の学習

によって言語文化を積極的に享受する姿勢を養っていくべきであるとの方向性がここからは読み取れる。現行の国語科では科目の構成からも分かるように教材を古典と現代文とに分けて授業をしていることが多く、『羅生門』と『今昔物語集』のように小説の学習においてその素材となった古典を同時に学習することはあるにせよ、現代文分野と古典分野とを関連付けて学習することは多いとはいえない。それは授業において教材の内容理解のみに終始してしまう要因の一つともいえ、教材をめぐる影響関係や享受の有り様等に目が向けられづらい状況を生み出していた。また、古典分野においては、およそどの教科書も説話にはじまり、その次に随筆や物語といったジャンルごとに教材が配列されている。これは、短くて読みやすい教材を入門的に用いることで古典に親しんでもらおうとする意図と文法事項の段階的な学習が意識された教材配列であると考えられるが、この配列が文法と

逐語訳に重点が置かれた授業展開を生んできたともいえ、結果的に生徒にとって古典をつまらないものにしてしまったのではないだろうか。

教材配列の再考

では、前述した課題を授業によってどう克服すべきか。新学習指導要領の教科の目標の(3)には、

言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。(前掲書21頁)

とある。さらに、「我が国の言語文化の担い手としての自覚をも」ということについて、解説には、

我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた文化的に高い価値をもつ言語そのもの、つまり、文化としての言語、また、それらを実際の生活で使用することによって形成されてきた文化的な言語生活、さらには、古代から現代までの各時代にわたって、表現し、受容されてきた多様な言語芸術や芸能などの担い手としての自覚を持つということである。(前掲書24頁)

とあり、「歴史」あるいは「古代から現代」の流れを意識した上で「言語文化の担い手としての自覚」をもたせようとする意図が窺える。

そのようなことを踏まえ、稿者がここで提案したいのは、通史的な観点で教材を配列した授業計画である。これは、これまで稿者が実践してきたことであるが、例えば高校に入学して教科書で最初に学ぶ古文は『万葉集』ということになる。文法の体系的な学習を考えると、韻文でさらにはその時代特有の付属語等が登場する『万葉集』は入学当初の古典教材としては扱いづらいかもしれない。現行の「国語総合」の教科書でも『万葉集』は目次の後方に位置している。しかし、我が国の言語文化を総体的に理解しようとするとき、『万葉集』を読むことに加え、『万葉集』成立に至るまでの口承文芸や文字の伝来等、言語にまつわる変遷を学んでおくことも重要である。つまり、一つの教材を通して言語文化の流れも把握することで、逐語訳中心の理解を超えて教材が我が国の言語文化の中にどう位置づけられるのかを考えることが可能になるものと考ええる。

以下では、もう少し具体的に高校入学直後という想定で、現行の「国語総合」で多くの教科書が採用する教材をいくつか挙げ、これまで述べてきたように、歴史の流れに沿いながら教材を配列し直すと同時に、本文を読むこと以外に想定される学習活動を挙げてみたい。

■文学史を意識した教材配列による実践例

(一)『万葉集』

①加藤周一『日本文学史序説』第一章「『万葉集』の時代」を読み、『万葉集』とそれ以前の文学史についてまとめる。

②元号「令和」の典拠となった「梅花歌三十二首并序」の序文を読み、我が国の言語文化における漢詩文の影響について学ぶ。

①の『日本文学史序説』は、『万葉集』に限らず、さまざまな教材に関連づけることが可能であり、現代文、古典という枠組みを超えて、我が国の言語文化を捉えようとするのに有効である。

②の元号については、生徒にとっても身近な言語文化の一事象であろう。序文が漢文で書かれていることから、漢文の基礎に触れつつ、中国文学の我が国に与えた影響を知ることができる。

高校に入学してしばらくは、原文の内容を理解するために注釈書や現代語訳を活用することも必要であろう。また、教科書は漢字仮名交じりで表記されているため、万葉仮名による表記にも触れたい。

(二)『古今和歌集』

①『万葉集』と比較しながら、『古今集』の特徴を学ぶ。
②漢詩文の時代から仮名文学の隆盛へと移っていく背景を知る。

③正岡子規『歌よみに与ふる書』を読み、『万葉集』や『古今集』を子規がどう評価していたかを知る。

教材を通史的に配列する利点は、文学作品が成立する歴史的背景を先に学んだ教材とのつながりを意識しながら学べる点にある。現行のようなジャンル別の配列では、時代が前後することで、脈々と創造されてきた言語文化の連続性を把握しにくい。ゆえに、①のように、既習の教材と読み比べながら学習すること^②で、既習教材の復習効果も期待できる。また、通史的配列によって②のように教材間の文学史的知識を埋める学習活動も想定され、これまで取り上げられることが少なかった日本漢詩文にもスポットを当てることができる。さらに、③のように後代において古典がどう評価されたのかを知る上で正岡子規の『歌よみに与ふる書』を取り上げた。これは近代文語文の学習教材としても有効であることに加え、稿者の勤務先が子規庵や正岡子規記念球場に近いという地域性も踏まえている。

(三) 『伊勢物語』

- ① 『古今集』を踏まえ、業平や歌物語について学ぶ。
- ② 『仁勢物語』と読み比べ、江戸時代における古典の享受について学ぶ。

ここでは『古今集』の後に『伊勢物語』を置いたが、『古今集』の撰者の一人である紀貫之の『土佐日記』を選択するという考え方もあろう。いずれにせよ既習の内容に結びつけた教材選びをすることが重要であるというのが稿者の考え方である。②に挙げた『仁勢物語』はパロディーとして有名であるが、パロディーを古典受容の一つの形態として理解することで、生徒自身が古典のパロディーを書く等の言語活動につなげることもできる。

■おわりに

実践例として挙げられたのは、紙幅の都合でほんの一部であるが、通史的な教材配列によって歴史的な流れを意識しつつ、個々の教材を有機的に結びつけることで、言語文化への理解を深めようとするのが稿者の考えである。また、主教材として挙げた古典の読解にとどまらず、享受史的な観点に立って教材を照らし出すということも言語文化の理解に必要なことであろう。

高校の古典教育は訓詁注釈に偏った指導がなされてき

たがために、たとえば『源氏物語』は、ある程度の文法的知識を積み重ねてから授業で扱うというのが大方の認識になっている。そのため現行の必修教科目『国語総合』で扱うことは少ないのではないか。しかし、我が国の言語文化を考えたときに、『源氏』はその中心ともいえるべき作品であり、後代に与えた影響を考えれば、必修修で当然取り上げるべき作品である。もちろん文法指導を否定するつもりはなく、自立した言語文化の享受者を育てるためには、文法や古語の指導は欠かせないことは確かだが、注釈や現代語訳が整備され、図書館やスマホで現代語訳を簡単に手に取ることができる現在において、逐語訳を目的とした授業はその役目を終えつつあるのではないか。むしろ、国語教室そのものが新たな言語文化を創出する場であると考ええるならば、新学習指導要領の実施を前に、教員自身が改めて古代から現代までの言語文化を俯瞰し、新たな授業のあり方を模索していかなくてはならないのだろう。

注「読み比べ」を取り入れた古典の授業に関しては、若杉俊明「高等学校で古典を学ぶことの意義や価値を実感できる指導へ―魅力的な学習課題のための『読み比べ』の提言―」(『月刊国語教育研究』二〇一八年一月号)がある。

ことばでつながる

百人一首

新指導要領でも注目されている「言語文化」。高校生にも身近な百人一首をきっかけに、ことばや文化がつながり、古典と現代がつながる楽しさを紹介します。

紹介する人たち



ピーター・J・マクミラン
翻訳家、日本文学研究者、詩人。東京大学非常勤講師。著書に『英語で読む百人一首』（文春文庫）など。2019年、世界初の英語版百人一首「WHACK A WAKA百人イングリッシュ」を制作、発売。



奥村 準子
（おくむら・じゅんこ）
筑波大学附属高等学校教諭。大修館書店国語教科書編集委員。競技かるたの指導者、公認審判員、A級公認読手、また自らも競技者（六段）として活躍中。

今回の歌

紅葉であかく染まる竜田川の流れ

ちはやぶる神代も聞かず竜田川
からくれなるに水くくるとは

在原業平朝臣

【作者と歌】

作者の在原業平は、容姿端麗で和歌の上手な男性だったようで、「伊勢物語」の主人公としても有名です。「二条の後（藤原高子）」との恋物語は、「芥川（第六段）」など高校古典の教科書でご存じの方も多いでしょう。

『古今和歌集』の詞書によれば、この歌が詠まれたのは二条の后が「春宮の御息所と申しける時」のことですので、在原業平が五十六歳で亡くなる少し前の頃となる

英訳

Such beauty unheard of
even in the age of the raging gods —
the Tatsuta River
tie dyeing its waters
in autumnal colors.



『英語で読む百人一首』ピーター・J・マクミラン（文春文庫）より

「ちはやぶる」は「神」にかかる枕詞で、ふつう日本語で現代語訳するときには訳しません。それは「ちはやぶる」という言葉の響きから、たとえうまく言葉にできなくても、一つの世界がたちあがってくるような力が、何となく感じられるからでしょう。しかし、外国人が読むときは、そのような想像は働きません。そのため英訳では音の響きよりも意味をわかりやすく伝えることを重視して、「ちはやぶる」に raging という言葉をあてました。



昔は唐の国から来たものを賞美したので「唐紅」という表現が生まれました。赤く染まった紅葉の美しさは、錦や刺繍をほどこした織物「錦織」に喩えられたり、秋の時候の挨拶「錦秋の候」などになりました。漫画『ちはやぶる』の影響で競技かるたがブームになりましたが、かるたの聖地と呼ばれる近江神宮は、小倉百人一首の第一番歌「秋の田の」の作者とされる天智天皇をお祀りしています。その鳥居の色も、競技かるた選手にとっては「唐紅」かもしれませんね。



でしょうか。当時は四十や五十歳のお祝いに屏風を新調することが流行したそうです。で、紅葉の名所・竜田川の美しい風景を描いた屏風がおそらく二条の后のために新調され、業平はその風景を和歌に詠んだものと思います。

業平の詠む和歌は、『古今和歌集』の仮名序によれば「心余りて、詞たらず（情熱がありすぎて表現が不十分）」と評されます。この歌も「からくれなゐに水くくるとは」の解釈が分かれるところですが、私は業平が昔の恋人へお祝いの気持ちをこめて次のように詠んだと解釈しています。

「神の時代にだって聞いたことがない、竜田川の流が紅葉で深紅に染まるなんて」

（奥村）



関連することば

・紅葉（もみじ／こうよう）

・紅葉葉（もみじば）

・錦繡（きんしゅう）

・錦秋の候（きんしゅうのこう）

・紅葉の錦（もみじのにしき）

【関連】 このたびは幣もとりあへず手向山紅葉の錦神のまにまに

（百人一首24・菅原道真）

・錦（にしき）（金糸・銀糸など種々の色糸を用いて華やかな文様を織り出した厚地の絹織物。美しいもの、特に秋の紅葉の喩えに使う）

関連する行事・風習

・紅葉狩り（もみじが）
・紅葉賀（もみじのが）
・紅葉の衣（もみじのころも）
・紅葉襲（もみじがね）



「襲（襲の色目とも）」は、着物を重ねた色の取り合わせを指します。着物の表と裏地の色や、袖口・裾から見える配色など、平安時代の貴族達は季節に合わせた色使いを楽しんでいました。「紅葉襲」は表が黄、裏が蘇芳（暗紅色）の取り合わせで、美しく紅葉した木々の色です。現代のファッションにも共通する秋らしい色使いですね。

関連する作品

・「古今和歌集」293

二条にじうの后きさきの春宮とうこうの御息所みやすどころと申しける時に、御屏風びやうぶに龍田河たつたがはに紅葉もみぢ流れたる形かたをかけりけるを題かたにてよめる

素性そせい

もみぢ葉はの流れれてとまる水門みなとには紅葉くれなゐ深き波や立つらむ

業平朝臣

ちはやぶる神世かみよもきかず龍田河たつたがは韓紅からくれなゐに水くくるとは

(巻第五・秋歌下)

・「伊勢物語」第106段

むかし、男おとこ、親王せんのうたちの逍遙せうようしたまふ所にまうでて、龍田河たつたがはのほとりにて、

ちはやぶる神代かみよも聞かず龍田河たつたがはからくれなゐに水くくるとは

・「百人一首」69

嵐吹あらしふく三室みむろの山やまのもみぢ葉はは竜田たつたの川かはの錦にしきなりけり

能因法師のういんほうし

関連する後世の作品

・落語「千早振る」
・漫画「ちはやぶる」

落語「千早振る」は、古典作品のパロディが流行した江戸時代に作られました。紅葉の美しさを詠んだ和歌も、珍解釈によって、力士を引退した豆腐屋「竜田川」と花魁「千早」の物語に仕立てられます。でも、この演目で庶民が楽しめたのは、和歌の解釈を理解していたからでしょう。作者の業平も、自分の歌が落語や漫画に使われるなんて思いもしなかったでしょうね。まさに「神代も聞かず」です。

漫画『ちはやぶる』により、あらためて「百人一首」がブームになりました。このことは先ほども触れた「ちはやぶる」という言葉が持つ、世界観をかたちづくる力をよく示しているのではないのでしょうか。高校生のみなさんには、ぜひこういった、意味をこえた言葉の力を感じてもらいたいと思います。

この歌の作者は在原業平。私の翻訳した『伊勢物語』の主人公とされる人物です。業平は恋人の気持ちを見事に和歌に歌い上げています。

読み比べることで、新しい魅力が見えてくる

向嶋成美 編著

五〇〇メ、山頂の小さな山であるが、李白が歴を定め時を計して、天竺僧の友人であるが訪れるのを約束した。道玄三年刊「安陸縣志」などによれば、梁山の別名もあつたと書いて、恐らく處女「梁山」の語によつて山を以て慕はれつゝた李白の詩に因んで呼ばれたやうなものであつたであらうか。梁山平野、と云ふ語が何の意であつたか對上にならば、笑ひて答へず、わだかまりなく、と、山頂に白うさうなうたの山、湖邊に寄つた山と重なることがあつた。なお、安陸縣志の「梁山」は、元の書が「梁山」であつて、李白が誤に缺したところにより、「白梁山」の形が定着したという説が受け取れることがあるが、「梁山」の名は疑ふに「高麗」が見えるところではある。現在の安陸市に在ることから李白に因つて湖が位なり、梁の山（二）きりあれたに位置する梁山の麓に安陸李太白記念館が

際の西室六〇里。恵山は雲を衣襟に披散する野山もたゞ天地を得て愛した山である。林かそこそこ生む岩に白膚の長袴を穿てたといふ言ひはあつたから「雲衣白膚」一語を以て神仙とまじり白蛇とつてうづつけの山だつたであらう。この時期の傑作として「芳山に代はる」年少姉の整文に吾輩の「画」が在る。此時の詠草が芳山に述べた文と著る修文「ふねはこ」が一致し、山代にて書かれたといふ詩生山代から手紙で「山を愛した大飯しほこり」な作品である。「文選」に採録される樂翁

孔推舟 界へ逃 せ、な れば別 人」と 出仕し して修 官を願 ている

景の に向か かれた ところ 裏腹西 荊州 の諸世 米軍軍 た都下 た享白



A5判・上製函入・914頁
定価＝本体12,000円＋税

唐を代表する二大詩人、李白と杜甫の総合事典。二五〇篇を超える詩文の解説を主に、李杜の生涯や旅について紹介する。二人の生きた唐代の歴史や地理、政治や文化についても一章を設け、作品理解のための幅広い情報を提供する。唐詩の形式・助字用例解説・年譜・地図など、国内外の最新の研究をふまえた資料も充実した一冊。

杜甫詩の世界

〔付文章〕

天文と歳時

九日藍田崔氏莊

老去悲秋強自寬

興來今日盡君歡

並將重要遺失附

笑倩旁人為正冠

藍水遠從千澗落

玉山高並兩峰寒

原文・書き下し文・ふりがな・
現代語訳付き。

明平、此の会、誰か健忘を知らん
酔ひて来客を抱りて手紙に看る

(巻五)

の峯は山花に在りて
さねも夢と見ゆ秋、つめて自分で寛けりや
うらやましくも今日ばかりはたのめなりと
おぼしむる人ありけるに
なと思ふ
なりしが風が吹きさらせられうになとの
の人にんでてを直しもちことにして死

多くの名谷川を兼ねて流れ落ち、玉山は夏草に
盛んに繁茂し立ていて
崖へは樹立して
是れは雄大な気風にうれるが如くうら
に散り、しげけりと見づめるものであつた
日の霞の如き雲、翠嶺・阿蘇山・時子の
日に野原を照らす

本書の5大特色

1 豊富な情報量

李白117篇、杜甫154篇を収録。
日中の最新の研究成果を反映した語釈・解説が現代語訳にも活かされ、李杜詩の世界を豊かに伝えます。

2 比較の視点が充実

「生涯」「旅」「詩の世界」…。
同じ視点で語られているのに、個性が際立っていく不思議。
比べて読むからこそおもしろい、
新たな李杜の魅力が満載！

3 テーマ別の作品配列

「自然」「家族」「戦乱」などの共通テーマに加え、「送別」（李白）や「天文と歳時」（杜甫）といった、李杜の得意分野の詩を並べて味わえる配列の妙。課題学習のテーマ選びにも。

4 背景知識がわかる

李杜の生きた時代がわかる！
唐代の歴史・政治・地理・文化など、社会背景についても徹底解説。

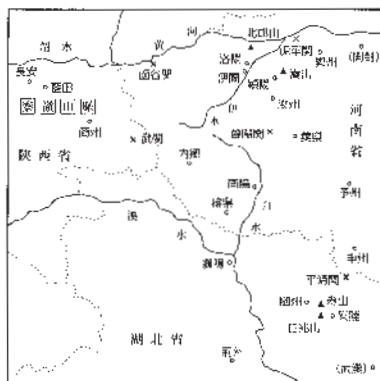
5 唐詩の作法がわかる

唐代に確立した近体詩のまきり、口語的表現など、唐詩や古漢語文法の基礎についても丁寧に解説。李杜作品だけで用例を網羅した、画期的な助字解説付き！

◆さらに学びたい人には…

大学生が考案した、諸本索引を兼ねる李杜の全作品一覧付き。

李白の旅



に過ぎず、土地の名勝古跡を訪れては多く詩にうなづいている。
後になつてこの時期の唐詩での遊行を懐かしんで詠じた詩を引
こう。

李白の旅
李白の詩の世界
李白と杜甫を知るために
李白と杜甫の時代
2 文学史の中の李白と杜甫
3 唐詩の形式
4 李白と杜甫を読むために
年譜／諸本解説／
参考文献／全作品一覧
詩題索引 ほか

李白の旅
李白の詩の世界
李白と杜甫を知るために
李白と杜甫の時代
2 文学史の中の李白と杜甫
3 唐詩の形式
4 李白と杜甫を読むために
年譜／諸本解説／
参考文献／全作品一覧
詩題索引 ほか

71

【主要目次】

I 李白と杜甫

李白

李白の生涯

李白の旅

李白の詩の世界

II 杜甫

杜甫の生涯

杜甫の旅

杜甫の詩の世界

III 李白と杜甫を知るために

1 李白と杜甫の時代

2 文学史の中の李白と杜甫

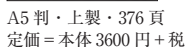
3 唐詩の形式

4 李白と杜甫を読むために

IV 付録

年譜／諸本解説／ 参考文献／全作品一覧 詩題索引 ほか

壮大な英雄譚を凝縮した、画期的な総合事典！



【主要目次】

索引	資料集 (↓④)
第XI章	関帝信仰 (↓③)
第X章	謀略と表象 (↓③)
第IX章	戦いの諸相 (↓②)
第VIII章	名場面四十選 (↓②)
第VII章	後漢・西晋の人物
第VI章	蜀の人物 (↓①)
第V章	呉の人物 (↓①)
第IV章	蜀の人物 (↓①)
第III章	魏の人物 (↓①)
第II章	英雄たちの時代
第I章	「三国志演義」の形成

↓①第Ⅳ章「蜀の人物」より、諸葛亮の説明ページ。

払い、孟獲を捕らえるが放つと、ようやく孟獲は心服した。

二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

「陳叔陵の表」を劉祥に付けて開いた第三次北伐は、鄒郡の守る陳倉に、雲梯、衝車などをつけて攻め寄せた。撤退する、追撃してきた二隻を斬った。

第三次北伐は、二二九年、鄒郡の烏夷を機に陳倉を取った。陳倉に陸軍駐在、王平、王叔元、都督の表を託し、劉祥に任ぜられた。

第四次北伐は、曹魏から陳倉を撤す。二二〇年、曹魏が司馬懿を遣はす。王平、張飛、王平に一騎を率いて、赤白の旗、守備を令し、曹魏の大軍を誘き、西に出た。魏兵は、陳倉に待った。陳倉を出て、遂に魏兵を破る。魏の指揮は不満を持った陳倉を斬った。魏は、魏兵を武

力を惜しみ許し

虫の創作部分は書
ひと目でわかるよ
れにより、正史と
めます！

第六次北伐は、三回、孫
流、馬義用兵、兵馬を輪流
火攻めて並に、諸將を驚か
し進軍したが、すでに病弱く、持
ちを伸ばす諸將も少く、突らな
く、劉備の使者である李福に、後
あける」と書文を見た。
司馬懿は書文を見て、諸葛亮の死を知り、攻撃をかけるが、
四輪車に覆する諸葛亮の木像を見て、逃げ戻った。劉備は、
亮を定軍山に葬り、忠孝侯と諡し、河陽に廟を建て李厳を子
孫祭祀を行なった。

130

↓②第七章「名場面四十選」より、「美女連環の計」・「曹操の不義」。

⑦ 美女連環の計

反董卓連合軍が分裂すると、董卓の専横は増すばかりであった。かつて、曹操に宝剣を渡して董卓の暗殺を謀った王允は、歌伎（歌姫）の貂蟬を使い、二人の仲を切り裂いた。董卓は、呂布に裏切られて殺される。

[illegible]

で 董 後

あつても、国への思いを抱くことに、その身を犠して大業を成し遂げる行為を漢への義を尽くしたものである。

また、銅鑼は王充には「自鳴の鐘」だ。銅鑼は、わたしは「自鳴の鐘」を呼んでいたとき、我が子みていたとき、わたし、わたし分の「自鳴の鐘」すらどうかしらしくいつしかさけることにはあてがうこともないけれど、銅鑼は、王充が「礼」によりけりだったので、その思惑でできなす、その動機も異なる。「礼」を通じての「自鳴の鐘」の響き、王充の「論衡」であり、王充への「報恩」であり、王充への「行動」である。毛宗崗の「評語」の「実践」の意味は、第一に銅鑼を演へた「毛宗崗は、『美談』の『評語』で重宝を叫んだ銅鑼を演へたこととして、高く評価してゐる」のである。

206

『演義』独自の創作部分は書体を変えて、ひと目でわかるように表示。これにより、正史との違いも楽しめます！

『演義』の魅力を大凝縮！
厳選された珠玉の名場面を詳しく解説する、本事典の「白眉」です！

自分の「名前」を「なまへ」に変換！

おおくら ひろし
大倉浩

筑波大学教授

第二回では、読解・解釈専用になっている現在の「古典文法」のあり方を、「文語文法」と比較して述べました。生徒さんが書いたり話したりという表現活動に、

現状ではほとんどつながらない「古典文法」ですが、新指導要領での創作活動のこともあり、今回はそのきっかけにもなるようなことを考えてみました。

課題 自分の姓名を歴史的仮名遣いで書き直そう。

いろは歌を書いたり、古文を写したりするのも古典文法を使うきっかけになるのですが、やらされている感じが残ります。いちばん身近な言葉、自分の名前の変換から古文作文に繋がてみます。

例えば、私の名前「大倉浩」は、

おほくら（の）ひろし

のようになります。歴史的仮名遣いは、『広辞苑』など多くの国語辞典で、現代仮名遣いの見出しの後に、漢字表記とともに「大倉^{オホクラ}」のように示していますから、まずはこれでわかります。すると、麻生太郎氏は「あさふ（の）たらう」に、櫻井翔くんは「さくらゐ（の）しやう」になります。国語辞典でうまく見つかからない場合は、漢和辞典で、使われている漢字の音（字音）や訓を調べて、その歴史的仮名遣いから考えます。綾瀬はるかさんのように「あやせ（の）はるか」で、変わらない人もいますが、学校名や地名などを加えれば違いは出てくるはずです。例えば「大修館高校一年生 鈴木祐介」君は、「たいしゅうくわんかうかういちねんせい すゞきのいうすけ」君になります。

すでに生徒さんたちも古文の読み方で、



古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/media/>

ゐ ↓ い ゑ ↓ え かう ↓ こう しゃう ↓ しょう

となることは知っていても、自分の名前の「利恵」が「りゑ」と変換されるとけっこう衝撃的ですよ。」「ゑ」の仮名じたいが漢字「恵」のくずしなのです。また、読み方は同じ「マイ」さんでも、「真衣」は「まい」で変わりませんが、「舞」さんは「まひ」になります。そうです、「舞ふ」というハ行四段活用動詞の連用形「舞ひ」に由来するからです。「ヒロシ」は「広し」、「タカシ」は「高し」で、古語の形容詞終止形なのです。このように文法の知識も必要なのです。書き方がわかったら、古典の教科書やノートの名欄は歴史的仮名遣いで書くのも楽しいかもしれません。

もちろん、全てのイやエの音が、昔はヰ_ヱやヱ_ヰの音だったわけではありません。約千年前の平安時代には、犬（いぬ）のイと猪（ゐのしし）のヰが別の日本語の音として区別されていたので、それぞれ「いぬ」「ゐのしし」と仮名表記していたのです。千年前には漢字の言葉もまだ中国語からの外来語の意識でしたから、中国語の発音を取り入れて「観音さま」を「クワンオンさま」と呼んでいたわけです。平安時代の発音に従って当時の人が書き記した文章も、現代

人には、複雑な仮名遣いの古文の文章に見えますが、千年間の日本語の発音の変化がじやまをしているだけで、当時の人たち（識字層ですが）には無理なく読めて理解できた文章なのです。自分たちの名前を書くだけでも、読むだけだった古文が身近になってきませんか。さて、古文作文のレベルをもう少し上げていきます。次の課題です。

課題

紫式部にファンレターを書いてみよう。

イケメン光源氏くんがタイムスリップして現代日本の OL さんの前に現れる騒動を描いた面白いマンガを、高校の先生から紹介いただきましたが、その裏返しです。現代の我々から平安時代に連絡してみましよう。スマホではつながらないでしょうから、手紙です。そうすると、紫式部の住所は？ 宛名は？ 当時の京都のことや彼女たちの生活に関心が向いてきます。さらに、彼女に読んでもらうためには、当時の日本語で表現しなくてはなりません。どう書いたらいいか？ 次回考えていきましょう。

（続く）

多様性の擁護に向かうためのレッスン

かまえ だい き
構大樹

——宮沢賢治の作品という格好の題材

清泉女学院中学高等学校教諭

せっかく高等学校の「国語」で文学作品を扱うのに、学習者の言語能力の向上や、文化の継承者としての自覚を高めるような目標を立てるだけではもったいない。文学作品は私たちの世界が、並立する複数の「世界」から成り立つことを、作品世界を通じて教えてくれる。そして、そうした世界のあり方への理解こそ、今まさに求められている多様性の擁護に向かうための第一歩となるはずだ。

さて、多様性の擁護に向かうための文学作品を用いた授業（レッスン）を構想するとき、その格好の題材として宮沢賢治の作品があるのではなからうか。賢治作品といえは、まず「雨ニモマケズ」が思い当たるかもしれない。また同作の影響下で、あるいは作者の聖人的なイメージが陰に陽に作用して、賢治作品は一元的でお説教くさいもの、とい

った先入観もあるかもしれない。しかし、そんなことはないのである。賢治作品の細部に目を向けてみると、意外（？）にも複数の「世界」のせめぎ合いが、そのまま作品世界にパッケージされていることに気づく。

国語総合の教科書にしばしば採られる「なめとこ山の熊」を例に、もう少し具体的に説明してみよう。

「なめとこ山の熊」は——これは賢治作品のステレオタイプな読み方でもあるのだが——「雨ニモマケズ」から類推される〈献身〉〈みんなの幸福の追求〉〈弱い立場への深い愛情〉といった観点から、その物語が整理されやすい。つまり読まれ方としては、そうした観点と呼応する、①市場での商品取引によって成り立つ社会を、立場の格差が固定化される不平等なものとして嫌悪し、そうしたものは「世

界がだんだん進歩するとひとりで消えてなくなっていく」とする語り手の意見、②殺し殺され、祈り祈られるという小十郎と「熊」の根源的で対等な関係が生じた「なめとこ山」に理想「世界」を見出す語り手のまなざし、を作品の主題に据えようとする方向性が看取できる（以下、本文は筑摩書房『新校本全集』より）。

こうした読み方は、語り手の「さう思ふ」に従って整序が試みられた想像Ⅱ創造に、読み手が進んで寄り添っていくものである。もちろん語り手への寄り添いは、物語を受け取るにあたつての第一歩だ。しかし「なめとこ山の熊」の場合、そこに留まつてしまつてはもの足りない。というのも、語り手の「世界」観に基づき語り出されたことなかには、その「世界」観で収束し切れない点が見受けられるためである。要するに、語り手は自分の話が「人から聞いた」話をもとにしていると述べるが、それをうまく消化できずに、勢いのまま語っているところがあるのだ。

そもそも「なめとこ山の熊」において、小十郎と「熊」との間に根源的で対等な関係が生じたとするならば、それは一方の小十郎が「畑はなし木はお上のものにきまつたし里へ出ても誰も相手にしねえ」ため、金銭を得るには「仕方なしに猟師」をするより他なくなつたことに起因する。小十郎は夏になると「菩提樹の皮〔で〕こさえたけらを着

てはむばきをきはき」、「里」よりも「山」に近い場所に住むというきわめて境界性を帯びた存在としてある。そうした小十郎は、社会構造の変化により、追われるように「山」へ入つていった。作品世界における「まち」を人間の領域、「山」を熊の領域、「里」をその中間の領域と言い換えると、この事態は「熊」にとつて、自らの領域の縮小に等しい。この小十郎Ⅱ人間も歩き回る中間領域の拡大は、「山」の方へはみ出す形でなされるためだ。小十郎は侵略者の位置にいると言つても過言ではない。

けれども他方の「熊」は、小十郎のように相手の領域に入り込んでいかない。だから「まち」の人間は「なかなか熊に食はれない」。しかも、小十郎という侵略者の排除さえ徹底しない。「熊」は多くの場合、「だまつて高いところから小十郎を見送つてゐる」。闘争状態になるのは、小十郎と間近で「ぶつつかつ」たときばかりである。これを指して語り手は「熊」が小十郎のことを「すき」と述べるが、ここに「熊」から小十郎への好意を想像するのは、あくまで語り手の楽観的な解釈だろう。小十郎が熊の領域に入り込み、彼らに危害を与えても何度も生きて帰ってくることもできるのは、小十郎が「熊」たちに見逃されているため、とも等しく読み取れるためだ。「熊」からの好意を、積極的に読み取る根拠は乏しいのである。

そして、この点を強調するとき、語り手の「世界」観では見落とされた「世界」が見えてくる。小十郎の「仕方なし」の狩猟が続いたのは、彼が「熊捕りの名人」だったからだけでなく、同時に「熊」たちが不利益を顧みずに、ある程度のところまでそれを許容したためと考えられる。すると、小十郎は殺した「熊」に対して「仕方なし」の行いだったのだからと許しを求めるが、もとより彼は許されていたことになる。いや、それどころか、小十郎は立場の弱い「熊」から、許しを一方的に与えられてばかりであることも浮かび上がる。「熊」による「二年目にはおれもおまへの家の前でちゃんと死んでゐてやるから」という申し出とその履行は、小十郎の困窮からくる「仕方なし」さが理解され、自らの命を差し出すことを許されたためだ。また小十郎は、これまで求めてきた許しを、逆に「お、小十郎おまへを殺すつもりはなかった」と求め返されながら命を落とすが、その後、遺体は「熊」から丁寧に扱われる。小十郎はうち捨てられない。最後まで「熊」の領域にあることを許されたことを象徴する場面と言える。

語り手はこの「熊」の最後の場面を、小十郎の表情に曇りが除かれ、満足が得られたかのように描くことで、関係性の理想が拓かれた「世界」として提示する。語り手が「なめとこ山」の「熊」に「おもしろい」ときつぱり述べるの

は、次にやってくるべき「世界」のあり方を、ここに見出したからだろう。しかし、そうしたロマンチックに言祝がれる「世界」とは、その実、弱い立場の存在がそのままであることを甘受することで立ち現れている。小十郎と「熊」は対等ではない。小十郎は「熊」が不利益をこうむることを許容したおかげで、これまでも、そして死に際しても利益を得ていたのだ。この点は注意しなければならない。

「なめとこ山の熊」では、語り手の「さう思」つたものとして理想「世界」が提示される。ところが語られた内容は、その細部に別の「世界」を隠している。そして、それらの「世界」は、見え方のバリエーションの域を脱しないという点において、せめぎ合いながら並立している。このような作品世界が成立しているのが、「なめとこ山の熊」という作品なのである。

複数の並立する「世界」を作品世界にパッケージする賢治作品は、「なめとこ山の熊」の他にも「鹿踊りのはじまり」「狼森と笹森、盗森」「雪渡り」「ビジテリアン大祭」「毒もみのすきな署長さん」「茨海小学校」などがある。ぜひこうした作品を、多様性の擁護に向かうための授業のなかで活用してほしい。

〔新刊〕構大樹著『宮沢賢治はなぜ教科書に掲載され続けるのか』

（四六判・並製・二七二頁・本体三〇〇円）



授業の提案

国語表現×「書くこと」 授業活性化のアイデア

PBL型小論文授業

協働×新聞×SDGs

たかはし
高橋

のぶあき
仲明

東京都立田柄高等学校

■はじめに

○社会背景と求められる力

AIやIoTに代表される技術革新やグローバル化の進展により、社会構造や雇用環境が変化し続ける現代。次期学習指導要領では「このような時代にあつて、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようになることが求められている」としている。

○二つのPBL「探究」か「活用」か

私は、その達成のための手段の一つが、PBL (Project-Based Learning) Ⅱ「プロジェクト型学習」であると考えている。課題の発見、目標設定、学習計画、合意形成、成果発表、自己評価などを学習者自身が自律的に主導することで、汎用的な能力や人間性の育成を志向した能動的学習スタイルのことである。イメージとしては「探究」学習に近い。(同じくPBLと略される知識や技術の「活用」を図った「問題基盤型学習」Ⅱ Problem-Based Learningとは区別したい。)

○「国語表現」として求められる力

「国語表現」は、次期学習指導要領では、現行課程の枠組みを維持しつつも、「実社

会」を生きたるために必要な言語能力の育成に重きを置いている点が特徴となる。特に

言葉の「自」と他者の相互理解を深める働き」に注目させることが主眼となる。主として「思考力、判断力、表現力」等の他者とのコミュニケーションの側面の力を育成することも重要となるのだ。

これを踏まえ、PBLの特性を活かし、社会も求める「他者と協働して課題」や「様々な情報を見極め」、考えを「再構築」できる小論文の授業を提案していきたい。

■実践事例

○授業の基本的な流れ

①基礎知識の定着(小テスト形式…生徒

相互採点・評価)、②ブックトーク(自己・相互評価「フィードバックシート」記入)、③前時の振り返り(授業者によるフィードバック・「振り返りシート」返却)、④「学習目標」の設定、⑤学習活動、⑥振り返り(目標(学習・態度)の達成度の自己評価)、「振り返りシート」記入、⑦(授業者)授業者による「振り返りシート」(や成果物)へコメント

※実践事例は⑤の部分にあたる(二時間連続授業)。

○【国語表現】PBL型小論文授業

目標「社会や身近な問題を取り上げ、その問題解決に向けた具体的な方法を、客観的な根拠を示して、八〇〇字程度で論じられるようになるう」

活動の三つのステップ

(1)「考える」、(2)「書く」、(3)「伝える」

(1)考える

①プロジェクトの目的を共有「全体」

PBLの要でもある、「なぜ・何のために、どのようなプロセスを経て」小論文を書くのかを共有する。

②グループごとにテーマを設定「個人」

四人グループに分かれ、それぞれ異なる新聞社の記事から、テーマとなり得る記事を選択する。

③思考の整理「個人」

新聞記事から得たテーマをもとに、思考ツール「イメージマップ」を活用し、キーワードを抽出する。

〈抽出例〉

・環境(「地球温暖化」「汚染」「絶滅危惧種」など)

・ジェンダー(「LGBT」「女性の社会進出」など)

・資源(「水」「ゴミ」「廃プラスチック」など)

④問いの作成「協働」

テーマやキーワードから浮かび上がる問題を協働して作成する。

〈作成例〉

「給食費未納問題」を解決するには？

⑤問題解決への手がかりの発見「協働」

多角的な視点から事象をとらえることで、問題解決の手がかりが得やすくなる。複数の媒体・資料から問題解決へのアプローチ

ローチとなる根拠を発見し、共有する。

⑥問題解決への指針の決定「個人」

これまでの考えを再統合、再構築し、指針(＝小論文のタイトル)を決定する。

〔決定例〕「給食費未納問題」の場合

・生徒A:「給食の役割」

・生徒B:「給食費の支払いシステム」

・生徒C:「保護者のモラル」

・生徒D:「貧困家庭への支援」

○【SDGs】の活用

「考える」際には、「持続可能な開発目標」(SDGs:Sustainable Development Goals)の観点を活用する。今、社会で起きている問題を、自分に関係することとして捉えられるようになるための補助とする。

(2)書く

①型(論証型小論文)の確認

授業者は教科書等を併用して、小論文の構成について確認する。

②アウトライン作成「個人」

型を確認し、自分の考えが相手に伝わるように意識しながら、アウトライン(構成メモ)を作成する。

③アウトラインのブラッシュアップ「協働」

グループ内でアウトラインを共有し、その構成や資料の引用について検討し合う。授業者は、適宜助言を加える。

④小論文作成【個人】

⑤小論文推敲【協働】

作成した小論文を回し読みし、そこにわかりにくい点や改善点についてコメントを書き加える。

⑥小論文リライト・提出【個人】

授業者は提出された小論文について、添削・アドバイスを書き加える。

(3)伝える

①振り返り【個人】【協働】

授業者によるコメントを受け、自己評価と生徒同士の批評を行う。

②プレゼンテーションによる共有【協働】

他グループへ共有することで、これまでのプロセスで得た知識や考えを「再構造化」することを意図して、プレゼンテーションを課す。そのためにも、各個人の小論文を中心とした知識や考えを共有しておく必要がある。他グループは発表について、ルーブリック評価とコメントをフィードバックする。

③小論文のリライト【個人】

グループのメンバーの小論文やプレゼンテーションのフィードバックを踏まえ、小論文を再度作成する。

○期待できる効果

目標を共有し、生徒同士が互いに知識や情報、考えを補い合いながら展開するPBL型小論文授業には、次のような効果が期待できる。

- ・社会の事象に対して生徒による問題提起
- ・協働により物事を多面的、多角的に捉えることができる視野の獲得
- ・単なる小論文指導では難しい、コンピテンシーの育成
- ・複数に及ぶ振り返りやプレゼンテーションによって、小論文における論の展開や構成という技能の鍛錬・向上

○留意点

グループ内のコミュニケーションが前提となる授業のため、グループワークやチームビルディングといった活動を日常から取り入れておく必要がある。

■授業にあたって

○授業をする上で大切にしていること

①学びのサイクルを回す

目標・目的の共有→実践→振り返り→

おもて		フリガナ (ふりがな)		2学期 シート No.	
年 組 番		氏名 (アドネーム)			
回数	月/日 (曜日)	(1) 今回の授業の「学習目標」(達成したら授業の最後にチェック)を入れること。【OK: □→☑】 (2) できるようになった・わかった・考えた・気づいたこと (必ず文章で書くこと) (※単語のみは×) (例) 今日は「～」を学習し、私は夢が出来るようになったと感じた。それについて★と考えました。 (3)-1 学習満足度: 当てはまるものに○をつけましょう。 (授業者への評価) 2 先生へのメッセージ・希望・感想・疑問・質問・雑談・伝言・絵・授業のアイデアなど自由にどうぞ!			
	時間	★(記入上の注意: What(何を)、Why(なぜ)、How(どのように)などが抜けにくい意識して書く!)			
	学習目標	(1) 学習目標 □「 (2) 授業中の発言をすることで「目標」に近づいた。 (達成した目標) (達成: 合計 2点)			
	学習満足度	(3)-1 学習満足度: 満足していない (1・2・3・4) 満足している (2) 授業中の発言をすることで「目標」に近づいた。 (達成した目標) (達成: 合計 2点)			
学習目標	(1) できなかった2あまりできなかった3少しできた4できた (2) 満足度「満足」 (0) できなかった (2) できた (2) できた (2) できた (2) (3) 考えた (0) できなかった (2) できた (2) できた (2) (4) 行動(発言・発表・質問) (0) なし (1) 1回 (2) 2回以上 (3) 3回以上				
学習・達成		合計		10	

振り返りシート (一部抜粋、A4 版両面で計6回分)

フィードバックという学びのサイクルを回していくことでスパイラル状にその学びや資質・能力は向上していくと考えている。

②アウトプットを意識する

学習はインプット（入力）とアウトプット（出力）の反復である。インプットによって情報や知識が増え、新たな視点の獲得などの「脳内世界」に変化が起る。多くの授業の場合、「出力者＝授業者」となるが、私はそれが「生徒」となった時こそ、より学びが大きいと考えている。今回提案した授業のように、生徒同士が協働しながら「現実世界」を変えていくとするプロセスがまさにそれである。このアウトプットの意識を育成すべく、「振り返りシート」には三つの「態度目標」①聴く（＝インプット）、②考える、③行動する（＝アウトプット）として、「学習目標」と並行して生徒の共通目標にしている。

○なぜ「SDGs」なのか

小論文指導において、生徒から「何を書いたらよいかわからない」と多く耳にする。

社会や事象、そこに潜む問題や課題を見つけ出す一つの視点として、「SDGs」は、大いに有用であると考えている。十七のゴールは、言い換えれば、十七「窓」とも成り得る。そこから覗いた世界は、これまでとは違って、より鮮明に現実的に見えることであらう。社会の事象が自分にも関係しているという当事者意識が問題意識を生み出し、「自分にも何かできるのでは」という可能性に満ちた考えがその解決への方策と繋がっていく。その「橋渡し」の役割を担うのもSDGsではないだろうか。

■まとめに変えて

教師が大切にしなければならない意識は、SDGsの基本的な考え方を表すスローガンと共通しているところがある。それは「No one will be left behind（誰も置き去りにしない）」ということである。出身や居住地、病気や障害の有無、性別や宗教などあらゆる条件にかかわらず、すべての人に目を配り、支援していくという姿勢である。まずは教師が先陣を切って示すことで、生徒の意識を育てたい。その場としても一

つ一つの授業を大切にしていきたい。



SDGs(持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている)。特徴は、以下の5つ。

(1)貧困	(2)飢餓	(3)健康	(4)教育	(5)ジェンダー	(6)水・衛生
(7)エネルギー	(8)成長・雇用	(9)インフラ	(10)不平等	(11)都市・地域	(12)消費・生産
(13)気候変動	(14)海洋資源	(15)陸上生態系	(16)平和	(17)パートナーシップ	

普遍性 先進国を含め、全ての国が行動

包摂性 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」

参画型 全てのステークホルダーが役割を

統合性 社会・経済・環境に統合的に取り組む

透明性 定期的にフォローアップ

「SDGs」について（外務省 HP より引用）



複合語・慣用表現を中心に

塚田勝郎
つかだ かつろう

元筑波大学附属高等学校教諭

1 覚えておきたい複合語・慣用表現

この連載でたびたび述べてきたことですが、漢文を正しく読解するためには、句法・句形の知識だけでは十分とは言えません。何よりも重要なのは、語の意味です。単語の重要語については、前回、例を挙げました。今回は、複合語・慣用表現と解釈に役立つ常識語を取り上げます。

まず複合語・慣用表現を含んだ例文を見ましょう。いずれも古典Bの定番教材である『史記』項羽本紀の「鴻門の会」の場面から採ったものです。例文の中の太字が複合語・慣用表現を示します。

ア 不^ン然^ラ、籍^ヲ何^ヲ以^テ至^{ラン}此^ニ。
イ 君王^ヲ為^リ人^ノ不^レ忍^ビ。
ウ 不^レ者^ガ、若^シ属^ガ皆^ニ且^ニ為^{ラン}所^ト辱^{スル}。
エ 請^フ以^テ劍^ヲ舞^フ。

オ 莊^ノ不^レ得^ズ擊^ツ。
カ 於^ニ是^ニ、張良^ニ至^リ軍門^ニ、見^ル樊噲^ヲ。
キ 今^ニ者[、]項莊拔劍舞^フ。
ク 交戟之衛士[、]欲^ス止^メ不^レ内^レ。
ケ 客何^ヲ為^ル者[。]
コ 豪毛^モ不^レ敢^ハ有^ラ所^ニ近^ソ……。

(史記、項羽本紀)

この中で、句法・句形の知識で対処できるのは、ア「不^レ然^ラ」・ウ「不^レ者^ガ」・ケ「何^ヲ為^ル者[。]」の三項くらいでしょうか。どれも、複合語・慣用表現の知識がないと正確な理解には至りません。とりわけオ「不^レ得^ズ」とコ「不^レ敢^ハ」は、場の状況や発言者の心情を推測する上で、正確な理解が欠かせないものです。

オ「莊^ノ不^レ得^ズ擊^ツ」は、「鴻門の会」の最も緊迫した場面を締めくくる一文です。項王の参謀を務める范増が、若い項莊に沛公を撃つことを命じます。ところが、沛公側の

張良に恩義がある項伯が、身を挺して沛公を項莊の攻撃から守るのです。項莊には沛公を倒す能力が十分あるにもかかわらず、項伯に機会を奪われて沛公を撃つことができなかったことを、この一文が鮮やかに描き出しています。

コ「豪毛^モ不^{シテ}敢^テ有^ラ所^ニ近^{ヅル}、……。」は、沛公に代わって項王に熱弁を奮う樊噲の發言の一部です。当時、沛公はす

でに関中の王でしたが、「ほんのわずかなものも、自分のものにしたりしていない」と控えめに述べることで、沛公の誠実さと項王への服従ぶりを伝えることに成功しています。筆者は重要な複合語・慣用表現について、次のような教材を配布して、生徒に自学自習を促しています。その一端をお目にかきましょう。

覚えておきたい漢文の複合語・慣用表現 65(抜粋)

【使い方】 覚えていたら□内を塗りつぶす。

未知のものがあつたら、漢和辞典で意味と用例を調べよう。

1 疑問・反語

□何^ニ如^ク・何^ニ奈^ニ・何^ニ若^ク いかん〔状態・程度・性質・可否などについて〕Ⅱ：はどのようであるか。Ⅲ：はどうだろうか。

□如何^ニ・奈何^ニ・若^ク何^ニ いかん・いかなせん・いかなぞ〔手段・方法・処置などについて〕Ⅱ：をどうしようか。Ⅲ：をどうしたらよいか。

□何^ニ為^ニ・奚^ニ為^ニ・胡^ニ為^ニ なんすレゾⅡどうして：か。

□何^ニ為^ニ者^ニ なんすルものゾⅡどういう者か。何者か。

□何^ニ以^ニ・奚^ニ以^ニ なにヲもつテⅡどうして：か。

□何^ニ由^ニ・何^ニ因^ニ・何^ニ從^ニ なにニよりテⅡどうして：か。

□何^ニ也^ニ・何^ニ哉^ニ なんゾやⅡ：はどうしてか。

□何^ニ能^ニ なんゾよクⅡどうして：できるのか。

□何^ニ謂^ニ也^ニ なんノいヒゾやⅡどういう意味か。

□幾^ニ何^ニ・幾^ニ許^ニ いくばくⅡどれくらいか。どれほどか。

□孰^ニ与^ニ・孰^ニ若^ニ いづレゾⅡどちらが：か。※「A孰^ニ与^ニ（孰^ニ若^ニ）B」（ⅡAとBとは、どちらが：か）の形で、多くの場合、AよりもBの方が優れていることを暗に示す。

□何^ニ必^ニ なんゾかならずシモⅡどうして：する必要があるうか。どうして必ず：することがあるうか。※反語専用。

□何^ニ有^ニ なにカアランⅡなにかがあるうか。なんでもない。

※反語専用。

（中略）

8 その他

□聞^ニ道^ニ きクナラクⅡ聞くとところによると。

□為^ニ人^ニ ひとトナリⅡ性格。人柄。

□所^ニ謂^ニ いはゆるⅡ世に言う。言うところの。

□如^ニ此^ニ・若^ニ此^ニ・如^ニ斯^ニ・若^ニ斯^ニ カクノごとシⅡこのようである。

□必^ニ將^ニ かならずⅡかならず。きつと。※「必ず將に」と

も訓読する。

□不_レ肯 がヘンぜず聞き入れない。承知しない。

□以_レA為_レB AヲもつてBトなスAのことをBだと思ふ。

※Aを省略すると次の形になる。

□以_レ為_レB もつてBトなスBだと思ふ。

※Bの字数が長い場合は、次のように読む。

□以_レ為_レB おもへらくBトBだと思ふ。

□A以_レB AスルニBヲもつてスBでAをする。Bを使

つてAする。※「以_レB A」(BヲもつてAス)と同じ。

□請_レ(願) … ①こフ…セン…したい。…させてほしい。

②こフ…セヨ…せよ。…してほしい。※文脈によっ

て「セン・セヨ」を読み分ける。

□不_レ得… …ヲえズ…(チャンスがなくて)…できない。

※能力がなくてできない場合は、「不_レ能…」(…スルあた

ハズ)を用いる。

□不_レ敢…・無_レ敢… あへて…せず・あへて…スルコトな

シ…したりはしない。…する気にならない。

□無_レ敢… あへて…スルコトなカレ…したりしてはいけない。

□敢_レ不… あへて…ざランヤ…どうして…しないことがあ

ろうか。きつと…する。※反語専用。

□欲… …セントほつス…①…したいと思う。②今にも…

しそうだ。※②は「将」と同じ。

2 基本的な語順

漢文の語順に関する知識も軽視できません。しかし、この分野に割くことができる学習時間は、ほとんどないのが実情です。学習内容の精選が求められるゆえんですが、忘れてはならないのが文中での目的語と補語の位置です。A・Bのように目的語・補語の順で出てくる場合と、C・Dのように目的語・補語の位置が逆転している場合があることを、ぜひ知らせておきたいものです。また、A・Bは「於」の有無にかかわらず、同じ構造と認定されることにも触れておきましょう。

なお、漢文の語法では「目的語」「補語」という呼び方は、

必ずしも正確ではありません。ここでは、生徒が英語の時間に慣れ親しんだ用語を使うことで、学習の便宜を優先しました。

板書例

○目的語と補語を含んだ文の語順

〈述語+目的語+補語〉の形

A 寧_ニ生_ミ而_{シテ}曳_キ尾_ヲ於_ニ塗_ニ中_ニ。(莊子、秋水)

B 治_メ天_ヲ下_ヲ、可_シ運_ミ之_ヲ掌_ニ上_ニ。(孟子、公孫丑上)

〈述語+補語+目的語〉の形

C 項_ノ梁_ノ乃_ニ教_メ籍_ヲ兵_ヲ法_ヲ。(史記、項羽本紀)

D 賜_ニ之_ニ卮_ヲ酒_ヲ。(史記、項羽本紀)

3 解釈に役立つ漢文の常識語

近年の大学入試では、「君子」や「聖人」のような漢文常識語の意味だけを問うような出題は、ほとんど見られません。しかし、漢文の背景を理解し、より深い解釈を行うためには、これらの語についての知識が不可欠です。筆者は二〇〇語に絞り、生徒に学習を促しています。

解釈に役立つ漢文の常識語200(抜粋)

【使い方】正しく読め、意味を理解している語は、□・◇内を塗りつぶす。◇は、和漢で読みまたは意味が異なる語。

1 天地・自然に関する語

- 乾坤 天と地。天地自然。
- 太初・太極 万物の根元。
- 二氣 陰と陽の二つの気。
- 五行 万物の根元となる五つの元素。木・火・土・金・水。
- 十干 五行を陽(兄)と陰(弟)に分けたもの。甲(コウ・きのえ)に始まり、癸(キ・みずのと)で終わる。
- 十二支 時刻と方角を表す十二の名。子(シ・ね)で始まり、亥(ガイ・い)で終わる。十干と組み合わせると、六〇とおりの干支(カンシ・えと)ができる。※還暦は、数え年六一歳で生まれた年の干支に還ること。満六〇歳ではない。

新人教師の皆さんに向けて、教材研究の方法と授業のノウハウをお伝えすることを目的として始まったこの連載も、最終回を迎えました。若い先生方には、この連載の内容を参考にして、貪欲に教材研究に取り組み、生徒の実態に応じた授業を組み立てることを期待します。

全国のすべての教室で、豊かで楽しく実り多い漢文の授業が展開されることを願ってやみません。ご愛読ありがとうございます。

- 四海 ①四方の海。②天下。国家。
- 八荒 国の八方の果て。
- 雲漢 天の川。「天漢・銀漢・天河・銀河」などとも。
- ◇嵐 ①山中の青々とした気。②山の風。※「あらし」ではない。
- ◇霞 朝焼け。夕焼け。※「かすみ」ではない。
- 煙花・烟花 花がすみ。
- 煙景・烟景 かすみたなびく春景色。
- ◇時雨 ちょうどよい時に降る雨。※「しぐれ」ではない。
- 寒山 秋からふゆにかけての、もの寂しい山。
- 空山 人気がないさびしい山。
- 青山 ①青々とした山。②骨を埋める地。墓地。
- 沙場・砂場 砂漠。西域に広がる戦場としての砂漠。
- 江上・川上 川のほとり。

この連載が単行本になります。教材研究編・探究学習編・模擬授業編(動画)などを加えて今冬刊行予定です。ご期待ください。

大修館書店の国語便覧・学習辞典のご案内

新学習指導要領も、 新テストも、 (大学入学共通テスト) これで万全！



辞書120%活用アプリ！

動画 × ドリル
アプリサービス付き！



便覧の学びを深める動画リンク

まなび動画 Navi

今号には、

「まなび動画 Navi」を活用した実践 (P.52)、「ジショサポ」を活用した実践 (P.55) も掲載しております。あわせてご覧ください！

大きく見やすいサイズで国語の世界に親しむ

ビジュアルカラー 国語便覧

大修館書店編集部 [編]
B5判・496ページ・オールカラー
本体 880円+税



言語文化・
探究学習

古典から現代につながる伝統的な言語文化を視覚化したページを豊富に掲載しました。
アクティブ・ラーニング、探究学習に活用することができます。

New!

便覧活用の幅がさらに広がる、充実のサポート

準拠問題集 新テスト対応問題付き

B5判・64ページ 生徒用

『ビジュアルカラー国語便覧』と合わせて使える問題集。解答付き。

【語彙編】漢字、熟語、慣用句、敬語・言葉遣い、重要古語・漢語
【事項編】古典常識、百人一首、文学史(古典／近現代文学)ほか

準拠 CD-ROM にも
全問題データを収録!



まなび動画 Navi

生徒用

スマホ・タブレットなどで
視聴できる関連動画や
音声を紹介。

- 古典の世界
- 最新時事問題
- 作家本人による朗読
- 作家・作品紹介 ほか

New!



準拠 CD-ROM

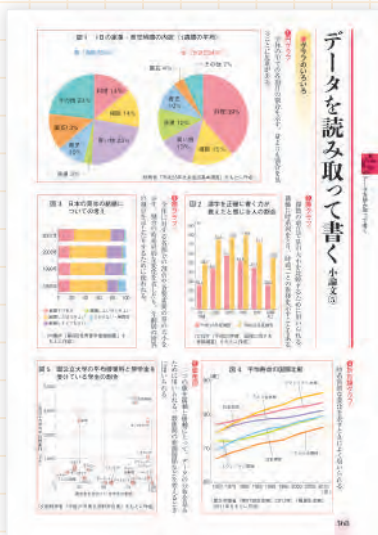
指導用

授業で活用できるデータを満載!

- New! ● まなび動画活用ワークシート
- New! ● 新テスト&アクティブ・ラーニング
対応ワークシート
- 小論文のためのワークシート
- 本文データ ● 画像データ
- 準拠問題データ ● 教科書教材対照表

書く力・語彙力

「書く力」と、それを支える確かな語彙力が重視される新テスト。『ビジュアルカラー国語便覧』は、語彙力と表現力の基礎から応用まで無理なく身につく「言葉と表現編」が充実しています。



図表・データ

統計データやグラフの読み取り、それらをふまえてレポート・小論文を書くためのページが充実しています。

便覧活用の幅がさらに広がる、充実のサポート

準拠問題集 新テスト対応問題付き

B5判・64ページ 生徒用

『トータルサポート新国語便覧』と合わせて使える問題集。解答付き。

【語彙編】 漢字、熟語、慣用句、敬語・言葉遣い、重要古語・漢語
【事項編】 古典常識、百人一首、文学史(古典／近現代文学)ほか

準拠 CD-ROM にも
全問題データを収録！



牛徒用

スマホ・タブレットなどで
視聴できる関連動画や
音声を紹介。

- 古典の世界
- 最新時事問題
- 作家本人による朗読
- 作家・作品紹介 ほか

New!



指導用

授業で活用できるデータを満載！

New! ● まなび動画活用ワークシート
New! ● 新テスト&アクティブ・ラーニング
対応ワークシート

- 小論文のためのワークシート
- 本文データ
- 画像データ
- 準拠問題データ
- 教科書教材対照表

書く力・語彙力

「書く力」と、それを支える確かな語彙力が重視される新テスト。『トータルサポート新国語便覧』は、語彙力と表現力を養う「言葉の知識編」「表現編」が充実しています。



図表・データ

統計データやグラフの読み取り、それらをふまえてレポート・小論文を書くためのページが充実しています。

間違いがわかる別冊索引付き

明鏡国語辞典

第二版

明鏡

辞典 国語

第二版

北原保雄 編

大塚書店



北原保雄 〔編〕

B6 変型判・1,954 ページ＋別冊 96 ページ

本体 2,900 円＋税

語彙力

確かなことばの力は、テストが変わっても引き続き求められる、大切な基礎力です。

画期的な別冊索引や、定評のある丁寧な解説で、確実に語彙力を身につけることができます。

きん・せん「琴線」(名)①琴との糸。②物事に感動し共鳴する胸奥の心情。「心の糸に触れる話」(注)「琴線に触れる」を「触れられたい」こと、不快な話題に触れる意で使うのは誤り。「×私の一言が彼の琴線に触れたのか、急に怒り出した」

「極まる」と「窮まる」の使い分け

極まる 469

極み

×「贅沢な極み」

極み 語法 469

極める

「極める・窮める・究める」の使い分け

極める 469

琴線に触れる

間違えやすい「琴線に触れる」の意味

琴線 ②(注) 474

別冊「明鏡 問題なことば索引」から、間違えやすい用法、敬語などを引ける！

言語文化

新テストに向けたモデル問題例では、「日本の言語文化に特徴的な語句」の知識をふまえた出題も見られました。『明鏡国語辞典』は、さまざまな観点で言語文化にふられるコラムが充実しています。

辞書120%活用アプリ!

JISHO SUPPORT

ジショサポ

動画 × ドリル

アプリサービス付き!

動画

サンキュータツオ校閲室長の「明鏡校閲室へようこそ」

ドリル

「明鏡 ことばの達人ドリル」ほか

新全訳古語辞典



林巨樹・安藤千鶴子〔編〕

B6判・1,232ページ・2色刷

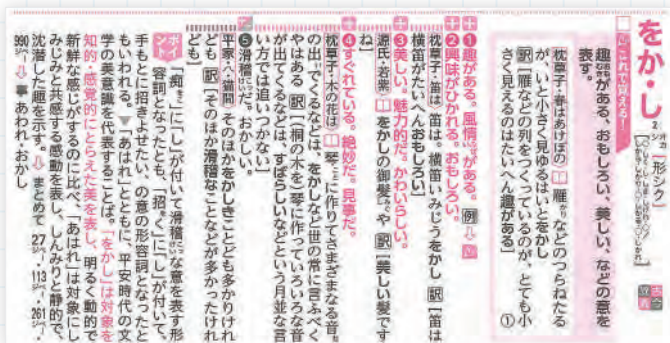
本体 1,800円＋税



語彙・文法

新テストでも、重要古語や古典文法の正確な理解力は引き続き求められます。

『新全訳古語辞典』なら、ビジュアルな工夫や丁寧な解説で、語彙・文法の力を確実に身につけられます。



和歌・古典常識

「言語文化」がいつそう重視される新学習指導要領下では、和歌や古典常識への理解力も試されることになります。

『新全訳古語辞典』は、和歌・古典常識・文学史に関わる3つのミニ事典を収録。楽しく学べます。

辞書120%活用アプリ！



動画 × ドリル
アプリサービス付き！

動画 ベリタス・アカデミー阪田先生の「古文文法・重要語活用講義」

ドリル 「例文で覚える重要古語ドリル」ほか

豊富な用例すべてに現代語訳付き

新漢語林

第二版



鎌田正・米山寅太郎 [著]

B6判・1,952ページ・2色刷

本体 2,900円＋税

鎌田 正
米山寅太郎

新漢語林

第二版

大塚書店

語彙・句法

新テスト対策でも、従来の入試と同様に出题される語彙・句法などの理解には、用例を用いてわかりやすく解説している「助字・句法解説」が役立ちます。

平安漢詩
平安時代四百年のなかでも、嵯峨天皇の弘仁元年（八一〇）から醍醐天皇の延喜年間に至る約百年は、漢文学が極めて隆盛におもむいた時代であった。その成立した漢詩集『三才集』を、上、これら以前、最初の漢詩集（年七五）一）この時代は、天皇を始め歴代、唐風漢詩の多、時の模倣の多、ようやくすく

江戸時代の漢学
徳川幕府は、その政治の支柱を、儒教、特に朱子学とした。政治の理念に儒教を置く統治者は少なくない。父子・兄弟・君臣・師弟など上下の関係を重視するその教えは、為政に適した面を持っていたのである。特に、幕府の創始者家康は、林羅山などの漢学者を親近するだけでなく、積極的に中国の書籍を多量に移入するとともに、その選別普及に努めた。また、五代將軍綱吉を、幕府直轄の学校として昌平黉（湯島聖堂）を聞くなど、家康の後継者たちも同じ方策を執った。このような幕府自らの積極的な普及援助によって、漢学は空前の盛行を見るに至った。

金葉
5画 8967 コウ 園 7181 E491 一
字義 ① やりくも。かりそめに。かりそめにも。② 助字。句法解説。③ かりそめにする。いやくもする。④ 一時の間。⑤ 合せにする。⑥ いかけんにする。なおきにする。⑦ まこと。⑧ 日に新しく。⑨ 日に日に新しくなる。⑩ 草の名。⑪ 草の名。
① かりそめに。かりそめにも。② かりそめにも。③ かりそめに。④ かりそめにする。⑤ かりそめにする。⑥ かりそめにする。⑦ かりそめにする。⑧ かりそめにする。⑨ かりそめにする。⑩ かりそめにする。⑪ かりそめにする。

言語文化

新テストに向けた試行調査では、日本における中国文化の影響や受容について問われました。『新漢語林』は、漢詩・漢文の理解を助けるコラムが充実。言語文化についての幅広い知識を押さえることができます。

辞書120%活用アプリ!

JISHO SUPPORT
ジショサポ

動画 × ドリル
アプリサービス付き!

動画 見ればキミも漢文がわかる!
塚田勝郎先生の『新漢語林』活用講座
ドリル 「例文で覚える漢文重要語ドリル」
ほか

ちがう読みをすることの意味

いしはら ちあき
石原 千秋

早稲田大学教育・総合科学文学
術院教授。専攻は日本近代文学。
著書に『漱石と日本の近代（上）（下）』『国語教科書
の中の「日本」』など多数。

共通テストは格差を広げる

新しい学習指導要領と共通テストの解説や批判は世に溢れているが、大学進学を左右する共通テストの影響の方がもちろん大きい。共通テストが実施されれば、予備校の影響力は計り知れないものになる。

共通テストによって私立大学は壊滅的な打撃を受ける可能性が高い。国・公立大学は二次試験があるから、共通テストの使い方しだいでは被害を最小限に食い止めることができる。しかし、体力のなくなってきた私立大学は独自入試を作成する教員が雇えず、共通テストに全面的に乗ってしまうだろう。共通テストに乗れば他大学と掛け持ち受験をもらえる可能性が高まるのだから、経営的にも新入生の学力維持のためにも、誘惑に勝つのは難しい。そして、共通テストだけを受験した学生が入学してくるのだ。そうなれば国・公立大学と私立大学との格差はおそろしく広がる。

そんなわけで、これからの国語教育に求めることを、私立大学教員の立場から、私の授業実践を紹介することで書いてみようと思う。これが私立大学の被害を小さくする方法だとも考えている。

大学教員の義務

いま勤務している早稲田大学の教育学部国語国文学科では、古典文学と近代文学に關して「基礎演習」という、学科の導入教育にあたる科目を設置している。この科目を担当するのが楽しみだし、大学教員の義務だとも思っている。

務だとも思っている。

楽しみの方は、いわばタブラサの状態の新生入生をだまぐらかす（言葉の綾だが、こういう面があるのは事実だと思う）ことができるからだ。これは面白い。一方、義務だと考えている一つ目の理由は、これから自分たちが四年間求める教育内容とその水準を身をもって理解してもらう必要があると思うからだ。二つ目の理由は、大学一年生が高校までに文学をどう読んできたかわかるからで、それはそのあとの大学での教育の前提となる。

私の基礎演習では半期一五回の授業で四千字程度のレポートを三回課す。すべて句読点に至るまで添削してコメントを書いて、さらに授業中に質問をして、対話をし

ながら返却する。クラスの規模を十数名にしてあるからできるのである。ただし、学生も教師も（！）負荷が大きくてきつい。だから、第一回目の授業ではつきり告げておく。「この授業では私は諸君に好かれようなどとは思っていません。ただけきつくて、大学生に必要なことを教えるのが私のミッションです」と。

それでも早稲田大学に就職した一七年前には、四年生になって私のゼミに来る学生の三分の二は、私の基礎演習経験者だった。「早稲田大学に入って高くなった鼻をへし折った石原先生に自分を認めさせます」という勇ましい学生もいた。ところが、例のゆとり世代から急激に傾向が変わって、ゼミ生の多くが私の基礎演習を受けていない学生となった。ただ、この二、三年は元の傾向に戻りつつある。

演習科目はこれが当然だと思っている。日本の大学はいまだに講義科目中心のカリキュラムで、時代に合っていない。知識を教員が独占していた一九世紀ならそれでもよかっただろうが、いまはいくらでもいい本がある。講義科目を半分は減らして、試

験範囲に教冊の本を加えておけばいい。それなら学生の勉強量は変わらない。そして演習科目の単位を倍にすればいい。

私がこうした負荷の高い基礎演習が必要だと考える理由は、早稲田大学の入試問題にある。ほとんどの記号選択問題なのだから、偏差値が高いが文章の書けない受験生は、入試に小論文のある慶應義塾大学を避けて早稲田大学を目指す、高校に勤める卒業生からよく聞く。この入試を行っている以上、文章が書けるようにするのは早稲田大学の教員の義務だ。

ここまで書けば、私が国語教育に何を求めているかは自ずから明らかだろう。

大学生のレポートへ

新入生に課す第一回目のレポートでは、「大学生らしいレポートとはどういうものなのか想定しながら書きなさい」以外は一切何も言わない。学生には「小手調べ」と言っているが、高校までにどういう教育を受けてきたか、そして学生の学力や個性や性格がわかる最も重要なレポートだ。

新入生のレポートはほぼ四通りにわかれ

る。多くは「まとめ学習」で、小説のストーリーをまとめただけのもの。二つ目は何冊かの本をまとめた「調べ学習」のようなもの。三つ目は「よいこの作文」で、道德的な教訓を読むもの。四つ目は、自己語りの感想文である。こうした学生に「紙の上の不良になれ」と説く。

第一回目のレポート返却時には、九〇分かけて以下のようなことを丁寧に話す。

それはレポートの構成と文体の問題である。大学では「私は〜と思う」という文体では通用しない、「〜は〜である」という文体でなければ通用しないと。現実には「私は」〜は〜である（と思う）「なのだが、ただこの（私は）」（と思う）を消すためだけに大学の四年間があると言ってもいいと、やや誇張して言う。つまりは、説得の技法を学ぶのである。それが成功していれば「論理的」と評価されるだろう。

しかも、それは「個性的」でなければならぬ。これもまた構成と文体の問題である。「ふつうは〜、しかし〜」構文を身に付けさせる。構文とはすなわち発想である。ほんとうに個性的な人間にこういう教育は

いらない。しかし、多くの学生や教師（もちろん私も）は天性の個性など持つてはいない。そこで、「ふつう」が何かをよくわきまえた上で、それとはちがったことを書く「勇気」を身につけてもらおう。私からの最大の褒め言葉は「ようやく性格が悪くなってきたね」である。文学に深く関わろうとする人間の性格は捻れているものだ。

いまの学生は話し言葉でレポートを書くから、「やっぱ」でなく「やはり」であるとか、「いまいち」でなく「いまひとつ」だと、書き言葉も指導する。

自分でテーマを決める

ここでもっとも重要な授業のルールをきめる。作者に関する情報を使わず、一切言及もしないことである。理由は二つある。一つ目は教育学部だからで、ほとんどの場合、教壇に立った教師は作者を参照しないで授業をしなければならないからだ。二つ目は、作者の情報にヒントをもらって発想するのでは、自分で考えたことにならないからだ。研究の成否はテーマ設定でほぼ決まる。テーマ設定を一からやって、その厳

しさを学んでほしいのだ。

発表を進めながら第二回目のレポートを課す。何人かの学生は妙なテーマを設定し始める。ここで肝心なのは「実力で書かないこと」と指導することである。学生は妙な顔をするが、たとえば「自分と他人」というテーマを設定したら、せめてレイン『自己と他者』とか『引き裂かれた自己』などは読んでおかなければとアドバイスすると、指導の意味を理解する。困るのはネットだけで「調べた」気になることだ。図書館に行つて本を手に取りなさいと指導する。この授業には、図書館職員による図書館ガイダンスも組み込まれている。

点数を付けることは教師という職業の業だが、私は学生との熾烈な対話だと考えている。第一回目から授業で最終的に望むレベルによつて点を付ける。何点足りないかで、いまの自分のレベルを測定してほしいと伝えておく。二〇点などもざらだ。ところが三回目のレポートになると、多くの学生が「紙の上の不良」になつて、突然すばらしいレポートを書くのだ。この化学変化の理由はいまだにわからない。学年点は三

回目のレポートの点を付ける。これも三回もレポートを課すからできることだ。

今年は武者小路実篤『友情』を読んでいる。野島はなぜ人に言われるまで杉子の指の美しさに気づかなかつたのかという問いを身体論を援用して論じたセンスがいいものや、大宮を選んだ杉子自身も気づいていないだろうその選択基準を炙り出すものや、野島はなぜ右にばかり曲がるのかという奇妙な問いを立てたもので、読んでいて実に楽しい。学生たちは、テーマがちがえば読み方もちがつて、それらはすべて「正しい」ことを理解する。私が求めているのは、文学的な感性とそれを他者に伝える論理、すなわち対話である。

一つの小説を文庫がぼろぼろになるほど読み込んだ経験はなかつたと、多くの学生は語る。そして、たくさんの読み方を知つたと、議論に付き合つてくれたクラスメイトに感謝する。数名の学生は楽しかつた、レポートの書き方がわかつてためになつたと感謝する。これ以上望むものがあるだろうか。しかし、今度の国語改革からは、こういうことができずイメージがまったくわからないのだ。

「まなび動画」を活用した授業づくり

～動画で深める学び～

やまもと かずき
山本和貴

神奈川県立山北高等学校

■はじめに

社会の情報化が急速に進むなか、教育の世界でもICT教育に本腰を入れはじめている。文部科学省は「新学習指導要領実現のためには学校のICT環境整備が不可欠である」と述べており、すでに県内ではICT利活用授業研究指定校として六つの高校が指定を受けている。本校でも二学期から生徒用のタブレットとWi-Fiが導入される。

生徒の確かな学力を育成するために、より分かりやすい授業をすることが我々教員に求められているが、ICTを効果的に活用することによりそれが可能となる。特に「動画」は、視覚や聴覚に訴えかけるため、授業の臨場感を飛躍的に高める効果がある。

私は授業内で動画を使うという新しい試みに今述べた効果を期待しつつも、インパクトだけで中身のない授業にならないか、教員二年目の私がそもそも授業で効果的

に動画を扱えるか、などの不安があった。今回『ビジネスアルカラー国語便覧』の「まなび動画」を活用していく上で意識したことは、動画は授業冒頭の短時間に限定して活用するということだ。動画を使った授業を一時間継続したら生徒は疲れてしまうし、ノートをとることも難しくなってしまう。自分で考える力も低下してしまうだろう。私の場合は黒板を使った授業もきちんとやって、その中で生徒の理解を助けたり、深めたりするために動画を短時間で見せている。そのためチョークだけで授業をする日も当然ある。

■指導事例

「まなび動画」は一つの動画が二、三分から十分程度の短時間である。授業にも組み込みやすいし、生徒の負担にもならない。また、ワークシートがついており、授業と動画の内容をリンクさせやすい。

今回動画を導入した効果を以下に挙げる。

- ・授業への集中力が高まった。
- ・動画を見せた分スムーズに授業展開できた。
- ・生徒が自分で考えるようになった。
- ・動画を見せることで生徒を観察できる時間が増えた。
- ・テストの平均点が上がった。

実際の授業では、一年生の国語総合で、小説「夢十夜」の授業の導入で活用した。作者であり明治を代表する小説家である夏目漱石の生涯を普段なら便覧をもとに解説していくのだが、ここで「まなび動画」を視聴させワークシートを記入させてみた。ただ動画を見るのではなく、その内容をワークシートにまとめ、問題に答えるという活動が加わることで、生徒たちは集中して動画を視聴し理解しようとしていた。小説の時代背景や作者の生涯を映像で見せることで学習の動機付けを効果的に行うこともできた。結果として夏目漱石の文学史をただ覚えさせるのではなく印象深いものにさせることができたといえる。今後は小論文指導や探究型学習においても動画やワークシートを積極的に活用していきたい。

■まとめにかえて

ICT教育が進むなかで、新しいものが次々と導入されていく。私のような新米はともかく、長年にわたって

山本先生が使用した動画とワークシート

○夏目漱石(NHK for School) 03:07

【動画内容】江戸時代が終わりを告げるころ、夏目漱石は生まれた。大学でイギリス文学を学んで留学経験もし、帰国後「吾輩は猫である」でデビューした。



◆「夏目漱石」関連動画

- 明治時代の小説 04:02
- 10min.ボックス現代文 明治文学史 10:00
- 10min.ボックス日本史 文明開化 10:00
- 東京 丸の内 雑誌 「ホトトギス」編集部 03:41
- 松山 愚陀仏庵 03:44
- 10min.ボックス現代文 ころろ 10:00





* 画面は「ビジュアルカラー国語便覧」の「まなび動画Navi」

便覧の掲載順に関連動画を紹介。便覧と動画をあわせて活用することで、学びが深まります。

教壇に立たれている先生方は、今までとは違う教育の流れに戸惑われている様子だ。だからこそ、ICTを使わなければならないという義務感よりも、こんな面白いことができると感じるものが大切なのではないだろうか。生徒の学びに活かせるものを絶えず探究していくことが我々教員の本質だと思う。これから目まぐるしく変わっていく教育の世界で、これらを活用しつつ、授業での生徒たちの姿を思い浮かべながら、生徒の糧となる授業を目指していきたい。

指導用



準拠CD-ROMには、小論文指導や探究型学習、新テストの対策にも使える「まなび動画活用ワークシート」も収録！

◆その他の動画

【古典文学編】

平安京／装束／寝殿造／天橋立／伊勢物語／源氏物語／大鏡／枕草子…

【漢文編】

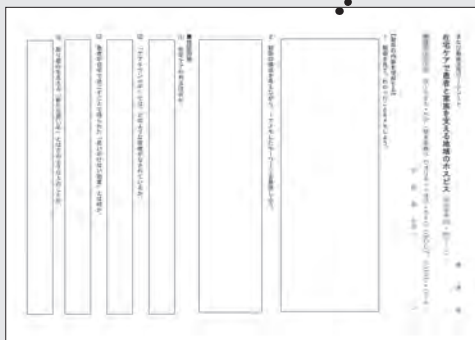
漢詩／論語…

【評論編・表現編・言葉の知識編】

接続表現／因果関係…

【小論文のためのテーマとキーワード】

情報化とコミュニケーション／技術の進歩と生命倫理／環境とエネルギー問題…





国語総合 「書くこと」——ジショサポを使った授業実践

校閲から学ぶ文章校正

おかざき みさ
岡崎美沙
愛知産業大学工業高等学校

■はじめに

デジタル化が著しい現代。スマートフォンを持っている高校生の方が珍しい。生徒たちは教員以上にスマートフォンを利用して遊ぶが、ゲーム依存やSNSの問題で本校では電源を切り使用禁止となっている。その一方で、勉強に特化したアプリケーションも多くリリースされている。それ故、それらを使いこなして授業で活用していくことが必要な時代になってきたように感じる。

平成三十一年に大修館の学習辞典で「ジショサポ」というアプリのサービスが始まった。『明鏡国語辞典』からは、漢字や言葉の意味を学べるドリルや、文章の校閲をテーマにした動画など、とても充実した内容が配信されている。そこで、このようなアプリがある、と生徒に紹介して終わるだけではなく、より実りある学習のために授業内での活用を試みた。

今回は主に動画「明鏡校閲室へようこそ」を使用し、

「辞書の活用」と「文章の校正」をメインとした授業を行った。辞書の使い方を実践で学ぶと同時に、自分の書いた文章をどのように校正していくか、自分がどのようなミスをすることが多いか、ということの自覚を促すものがある。生徒たちが自主的に文章の校正を行えるようになり、また、文章作成のスキルが向上することを目指した。

■指導事例

①準備 生徒たちには、あらかじめ前回の授業で書いた作文を持ってくるように伝える。「夏休みで成長したいこと」をテーマに四百字程度で書かせたもので、前回の授業では自分で文章を書くということに重点を置き、自由に書かせていた。その作文を机上に出し、最後の確認の時間を取る。机間巡視をして、未完成の作文があれば少し時間を取り、最後まで完成させるよう指導する。

②動画「明鏡校閲室」で辞書引きと校正を実践 ワークシートを配り、プロジェクターで「明鏡校閲室」を映す。

「商品紹介の校閲に挑戦！」と「レシビの校閲に挑戦！」を使用。動画内の文章を一時停止し、ワークシートに問題の解答を記入させる。行き詰まっている生徒には声掛けを行う。辞書を利用したい生徒には積極的に許可し、調べたページに付箋を貼ったり、しおりを挟んだりしておくように指導する。辞書をうまく使えない生徒もいる場合、周りの生徒と協力して行うことも可である。

生徒の進行状況を見て、解答編を放映。解答編でも動画を適宜一時停止し、実際に生徒に辞書を引かせる。商品紹介校閲の動画では「食べる」「おもたせ」を調べる。調べたものは意味をワークシートに記入する。「食べる」の場合は意味が多いので、一つめの意味のみ記入するように声を掛けておく。記入したものを挙手制で生徒に答えさせる。

全員が辞書を引き、意味を記入することができたかを確認する。正誤は問わず「辞書で引いた内容を記録する習慣が大切だ」と伝えて意識付けける。辞書を引く作業が終わったらワークシートの問題を解き、答え合わせをする。「こんなにちわ」や「すいません」などの誤用を説明して、書き言葉と話し言葉の違いに気付かせる。

③実際に自分の作文を校正 最後に、自分の書いた作文の校正を行う。二つの動画で学んだことを活かし、実際

に辞書を引きながら表現の確認、漢字の正誤などを自分で見直す。生徒たちに赤ペンを持たせ、訂正部分は二重線を引き、訂正内容をその隣に記入させる。生徒の中には「間違える＝恥ずかしい」という意識を持っている者もいるため、間違えたところを消して書き直してしまう可能性がある。校正をする前に、授業の目的は「自分の間違いを見つけること」だと説明し、訂正部分を消さないよう指導をする。

校正中は周囲との相談を許可し、積極的にお互いの文章の正誤を確認するよう促す。辞書を引くことに慣れていない生徒は目的の言葉を見つけないことができず、途中でやる気をなくすことも多い。目当ての言葉が見つからないようであればアドバイスをする。

授業の終了時に作文を回収。生徒が校正を終わらせられなかった場合は期限を設けて提出させる。教員は校正できていないところに校正を加え、次の授業で返却する。今回の授業では、必ず本人が書いた文章を校正させることとした。意図は、本人の文章の癖を矯正するためである。また、自分の書いた文章を校正して気が付くことの面白みを体験してほしいと考えたからだ。

◀ワークシートと明鏡校閲室（紙幅の関係で書式の一部を変更した）

ジシヨサポ 文章の校閲をしてみよう！

機械科 一年（ ）組 名前（ ）

☆文章の校閲とは

校閲……

(1)「商品紹介」の動画を見て、文章の間違いを見つけ、適切な言葉に直そう。

① ↓

(2)言葉の意味を調べよう。

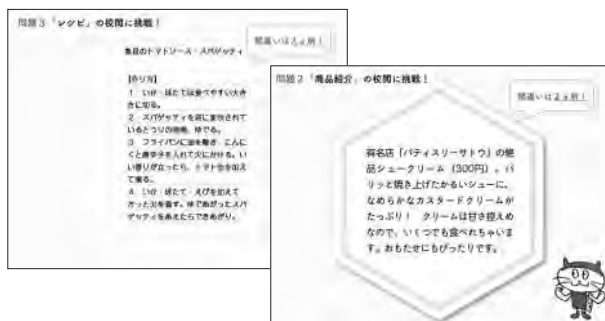
・

(3)「レシピ」の動画を見て、文章の間違いを見つけ、適切な言葉に直そう。

① ↓
② ↓
③ ↓

(4)次の言葉を正しい書き言葉に直そう。

① すいません ↓ () ② しずらい ↓ ()
③ こんにちは ↓ () ④ こおする ↓ ()



■まとめにかえて

「ジシヨサポ」のアプリを使うことによって、生徒たちも動画で学び、自分が書いた作文の校正を実践する、というメリハリのある授業をすることができた。アプリに興味を持ち、実際にダウンロードした、という生徒もいた。学校で学習習慣を指導することにより、家庭学習へつながる可能性も高い。今回の授業によってアプリを自主的に活用し、語彙を増やすことができるのではないかと考える。そして、文章の校正は一長一短で身につくものではないため、定期的にジシヨサポを使い、文章校正を習慣づけられるよう、今後も指導していきたい。

さらには、定期的に配信される、漢字学習や言葉の意味を問うクイズの方もぜひ今後授業に使用して、生徒の語彙力の増加を図っていきたいと考えている。

ICT教育が進む中、近い将来はデジタル教科書やさまざまなアプリ、生徒がタブレットを使用する授業が当たり前になるのだろう。「ジシヨサポ」アプリの活用を促すことで、現在所持するスマホを「主体的に取り組む学習の道具」に変えていくような研究授業をこれからも実践したいと考えている。

眉をしかめて風潮を論じる

テレビをつけたら、ワイドショーの司会者が「こうした風潮について、どう考えますか」とコメンテーターに質問する声が聞こえてきました。どんな内容かは分かりませんが、批判的なコメントを期待しているような気がしました。

*

「風潮」は、「時代とともに変わっていく世の中の傾向」（明鏡国語辞典 第二版）を言います。辞書の語釈には、「よくない方へ」といった条件は付けられてはいませんが、新聞では、「好戦的な風潮」「排外的な風潮」「軽視する風潮」「異端視する風潮」など、そう変わるのが望ましくくないという場合に使われているのが目につきます。

文学作品では、「俗書が段々科学的の書に接近して来る風潮」（森鷗外）、「ああいう悪い風潮に

関根 健一
せき けんいち

●日本新聞協会用語専門委員。元読売新聞東京本社編集委員。文化審議会国語分科会委員。大東文化大学非常勤講師。著書に『なぜなに日本語』（三省堂）、『ちびまる子ちゃん』の敬語教室（集英社）など。

染まらないようにしてくれたまえ」（島崎藤村）、「奢侈及び淫靡なる風潮」（岸田國士）、「軍国主義的な風潮」（福永武彦）などの用例が見つかります。「教育を受けた若い婦人が進んでそれらの職業に就くという新しい風潮を祝福した」（与謝野晶子）のような（プラス方向に近い）中立的な使い方もありますが、数は多くありません。

*

もともと「風潮」は、風と潮、もしくは、風に吹かれて生まれる潮の流れのことです。社会現象をたとえるときには、「風に流されていく」というイメージから、無責任さや、判断能力のなさ、が連想され、行っているいけない方にふらふらと行ってしまう様子に結びつきやすいのでしょうか。また、『大漢和辞典』には「暴風と狂潮。台風」と

もあり、そもそも災厄をもたらす現象を指しても使われたようです。

いずれにしても、「〜を軽視する風潮」「〜という誤った風潮」など、マイナス方向の価値観を持つ言葉と親和性が高いように思います。状況を客観的に述べるつもりで、「女性の社会進出の風潮」などと表現すると、それを批判、慨嘆しているように受け止められるおそれもあります。「女性の社会進出の風潮を歓迎する」だと、「一般には好ましくない」とされているが自分はそうはとらない」とでもいった一ひねりしたレトリックなのか、もしくは皮肉や揶揄^やが潜^{ひそ}んでいるのかなどと、読み手は一瞬戸惑いそうです。

*

「時流」「時勢」も、世の中の移り変わりをいう言葉です。風向き次第、潮の流れ次第の「風潮」に比べると、ある方向に確実に向かう強いうねりのようなものが感じられます。

「風潮」と異なり、(マイナス方向の)連体修飾語を伴った「〜の(〜する)時流/時勢」の形では用いられません。乗るか乗れないかということこ

ろに注目して使われるのが「時流/時勢」です。うまく乗れば、「〜に投じる」「〜を読む」「〜を先取りする」、乗り損なえば「〜に遅れる」です。といっても、「〜におもねる」「〜に迎合する」のは嫌われ、「〜にあらがう」「〜に逆らう」ことは、時として喝采が送られます。

*

性質や状態が特定の方向で傾くのが「傾向」で、方向の良しあしによらず使われます。

ただ、「特定の方向」を指す「傾向」もないわけではありません。かつて「傾向文学」なるジャンルがありました。思想的に特定の方向、特に左翼的な方向にかたよった作品群を指します。芸術的文学が本道であるとすれば、好ましからざる方向に向かうものという位置づけでした。

*

移り変わっていく方向を手放しで認める場合は「トレンド」が好まれるようです。行く世の流れを見つめるとき、無常の思いが浮かびがちな日本的伝統とは、切れたところにある外来語の強みかもしれません。

構大樹 著

宮沢賢治はなぜ教科書に掲載され続けるのか



四六判・並製・二七二ページ
定価〓本体二〇〇円十税

評者〓荒木 信

国語教科書の定番、宮沢賢治。「やまなし」注文の多い料理店」「オツベルと象」「永訣の朝」など、その作品が小中高、すべての段階で掲載されている稀有な作家といえるだろう。

しかしそれらの作品は、どのように教科書に掲載されるようになったのか。本書は、教育現場を中心に、賢治の生前から現代にいたるまでの受容をたどり、その謎を解き明かしていく。この受容の歴史のことが面白い。戦時中、「雨ニモマケズ」など賢治作品は、「滅私奉公」の精

神と重ね合わされて受容されていた。しかし、終戦後刊行された国定教科書にも、賢治の作品は、大きな批判なく掲載される。さらにその後の受容も一本道ではない。「民主主義教育」「エコロジー」など、時代が要請する多様なテーマと重ね合わされながら、受容されていくのである。賢治作品は教科書に掲載され続けているが、その意義は常に再創造されている。これからの新しい時代、我々は賢治をどう受け止めるのか。そんなことにも思いを馳せさせる一冊である。

加藤好崇 編著

「やさしい日本語」で観光客を迎えよう

インバウンドの新しい風



四六判・並製・一七六ページ
定価〓本体一五〇円十税

評者〓山本 敦

街で外国人に話しかけられ、すごく緊張して英語で何か返す。後になって、そういえば相手は日本語で話していたと気づく。そんな経験はないだろうか。本書は、こういう「外国人には英語」という思い込みから自由になって、増え続ける外国人観光客（三千万人突破！）とまざり日本語で話してみませんか、と提案する。普通の日本語とは違う、外国人用に調整された「やさしい日本語」を使うのである。日本に来る人は簡単な日本語の挨拶くらいは覚えてくる。そ

もそも観光客の八割はアジアからで、日本語学習者も多いのだ。いざれにしても日本語でのやりとりは旅の醍醐味になる。もてなす側の日本人も「こんにちわ」なら緊張せず自然な笑顔になる。「やさしい日本語」の作り方と使い方を書いた理論編がわかりやすい。そして自治体や旅館、店舗などの実践編が面白い。この取り組みはまだ始まったばかりで、今後の展開が何だか楽しみである。いや、楽しみというより、応援したいし、自分も早く実践したくなるのである。

向嶋成美 編著

李白と杜甫の事典

A5判・上製函入・九一四ページ
定価＝本体二二〇〇円＋税

評者＝夏目 京

李白と杜甫の出会いが天寶三載（七四四年）、洛陽の夏だった。李白四十四歳、杜甫三十三歳。その出会いはおそらく、文学史上最大の奇跡だったろう。ともに旅し、詩才を認め合った二人は、別れた後に互いへの思慕を詩に詠んでいる。例えば安史の乱のさなかに詠まれた杜甫の「李白を夢む」には、夢に現れた李白の尋常でない様子の動きが見事に表現されている。当時の「夢」がもつ機能についての考察も興味深い。

本書は、唐代を代表する二人の詩人、李白と杜甫を知るための総合事典である。李白一一五作品、杜甫一一二作品の原文・訓読文・訳をテーマ別に分類して掲載した「詩の世界」を中心に、李杜の生涯や旅、唐代の歴史や文化など、李杜作品を理解する上で必要な事柄を網羅している。また、唐詩の形式や古漢語文法、助字用例等の解説も丁寧で、大いに読解の助けになる。読み比べることで、李杜の新たな魅力が浮かび上がる。教室にも準備しておきたい一冊だ。

渡邊義浩・仙石知子 著

三国志演義事典

A5判・上製・三七六ページ
定価＝本体三六〇〇円＋税

評者＝井戸良典

本書は、小説『三国志演義』の総合的な事典である。主要人物についての解説をはじめ、「三顧の礼」などの名場面、幾多の戦いの諸相など、基本事項を網羅。『演義』をより深く読み、学び、楽しむための情報が凝縮された一冊と言えるだろう。

もちろん戦いにおける知略・謀略の数々や、有名な武器など魅力的な登場人物を象徴する要素、蜀の武将である関羽を神とまで崇めるいわゆる「関帝信仰」など、『演義』ならではの魅力も

多く取り上げている。また本書の画期的な特長だが、『演義』が正史『三国志』を基とした虚構作品であることをふまえ、『演義』独自の創作部分は書体を変え、ひと目でわかるようにするという工夫が施されている。正史と『演義』との違いに意識的な近年の三国志ファンも、双方の違いを楽しみながら読み進められるだろう。

正史『三国志』を扱った好評既刊・『三国志事典』とあわせて、三国志を読み味わう上での基本書となることは間違いない。

News & Topics

国語・教育に関わる情報と
授業に役立つ話題を集めました。

高等教育の無償化に向けた「大学等における修学の支援に関する法律」が5月10日成立した。これは2017年から実施されている、日本学生支援機構の給付型奨学金制度が拡充されたもの。住民税非課税世帯の学生を対象としている。6～7月に申請し、年末に給付の可否が通知される。詳細は文科省に特設ページが設置されている。
(<http://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>)

📖「大学等修学支援法」成立

📖教育行政関係

- 「大学等修学支援法」成立 (5/10)
- 私大の学部譲渡容易に簡素化 (5/13)
- 教員の勤務時間は参加国平均の1.5倍(中学校)で日本が最長。OECD 調査 (6/19)
- 「日本語教育推進法」成立 (6/21)
- 文科省、夏季休暇等について学校業務削減を求める通知 (6/28)
- 新大学入試から TOEIC 撤退 (7/2)
- 日本学術会議が「優性・劣性」から「顕性・潜性」への言い換えを提案 (7/9)
- 学会 16 団体、「高等学校国語・新学習指導要領」への見解表明 (8/10)
- 文科省、大学入試英語ポータルサイト開設 (8/27)

🔍時事

- 本屋大賞発表。瀬尾まいこ『そして、バトンは渡された』(4/9)
- 「令和」改元。徳仁新天皇即位 (5/1)
- 加藤典洋死去。71 歳 (5/16)
- 田辺聖子死去。91 歳 (6/6)
- 山下泰裕、JOC (日本オリンピック委員会) 会長に (6/27)
- 「百舌鳥・古市古墳群」世界遺産登録決定(7/6)
- 芥川賞・直木賞発表。芥川賞は今村夏子「むらさきのスカートの女」、直木賞は大島真寿美「渦 妹背山婦女庭訓 魂結び」(7/17)

📖「日本語教育推進法」成立

「日本語教育の推進に関する法律」が6月21日成立した。これは、日本国内で暮らす外国人を対象とした日本語教育の充実を促すもの。国や自治体には日本語教育を進める責務、企業は雇用する外国人に教育機会を提供する努力義務を明記している。
(http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyousei/shokan_horei/other/suishin_houritsu/1418260.html)

📖 新大学入試からTOEIC撤退

「TOEIC」を運営する国際ビジネスコミュニケーション協会は7月2日、大学入学共通テストへのTOEICの参加を取り下げると発表。大学入学共通テストは、2021年から従来のセンター試験に変わって実施されるが、英語については、大学入試英語成績提供システムとして民間の外部試験も利用できるとなっており、TOEICも当初参加を表明していた。

なお、文部科学省は、実施概要や大学ごとの利用予定など、英語民間検定試験の情報をまとめた「大学入試英語ポータルサイト」を8月27日に開設した。

(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1420229.htm)

🗺️ 世界遺産に「百舌鳥・古市古墳群」

ユネスコの世界遺産委員会は、7月6日、「百舌鳥・古市古墳群」(大阪府)を世界文化遺産に登録することを決定した。

国内の世界文化遺産としては昨年の「潜伏キリシタン関連遺産」に続いて19件目。

百舌鳥・古市古墳群は、古墳時代の文化

を物語る、全長2000mを超える古墳11基を中心とした古墳群。

📖 「高等学校国語・新学習指導要領」に16学会が見解を発表

日本文学関連学会連絡協議会に所属する上代文学会、日本近代文学会など16団体による連名で、8月10日、「高等学校国語・新

研究会・展覧会だより

全国高等学校国語教育研究連合会

第52回 研究大会 鹿児島大会

〔日時〕2019年10月24日(木)・25日(金)

〔場所〕宝山ホール(鹿児島県文化センター)、鹿児島市内の高等学校3校

〔問合せ〕<http://www.kokugo.gr.jp/>

全国大学国語教育学会 第137回仙台大

〔日時〕2019年10月26日(土)・27日(日)

〔場所〕宮城教育大学 青葉山キャンパス

〔問合せ〕<https://www.itsj.or.jp/>

日本語学会 2019年度秋季大会

〔日時〕2019年10月26日(土)・27日(日)

〔場所〕東北大学 川内北キャンパス

〔問合せ〕<https://www.jling.gr.jp/takai/2019b/>

学習指導要領」に関する見解が発表された。

「新学習指導要領の実施にあたっては、単位の認定、教科書検定等に際し、『人文知』の軽視されることのない、柔軟な運用を行うことを強く求める」としている。

(<http://swbg.org/wp/?p=1548/>) 昭和文学会)

日本近代文学会 2019年度秋季大会

〔日時〕2019年10月26日(土)・27日(日)

〔場所〕新潟大学 五十嵐キャンパス

〔問合せ〕<http://amjs.web.fc2.com/conference.html>

日本漢字学会 第22回研究大会

〔日時〕2019年11月30日(土)・12月1日(日)

〔場所〕東京大学 駒場1キャンパス

〔問合せ〕<https://jscc.org/convention/>

特別展 三國志

〔日時〕2019年10月1日―2020年1月5日(九博)

〔場所〕九州国立博物館

〔問合せ〕<https://sangokushi2019.exhibit.jp/>

私は静岡県を担当しておりますが、もともと担当地区のことを知りたくて地域の図書館を訪れることがあります。そこで『静岡県文学読本』という本を見つけました。静岡県を舞台とした古事記、平家物語、万葉集など古典文学や、川端康成、井上靖、さくらももこなど近現代の作品と、随所にそれに関する解説・コラムが収録された内容で、編集は高校の先生がされていましたが、この本は現在、残念ながら絶版になってしまいました。以前は教材として授業で扱われることもあったようです。

静岡県が文豪と関わりが深く、文学の宝庫であること、それを生徒に伝えたいという先生方の熱い想いが込められた一冊でした。

名古屋支店 細田浩史



現在、私は地元である千葉県で営業を担当しています。夏の猛暑の中、営業車を走らせていると学生時代、熱気のこもった道場で、必死に剣道をしていたあの頃のことを思い出します。

「夏合宿」。高校生の頃、たった三文字でここまで恐怖を感じる言葉はなかったと思います。朝、午前、午後、夜の四部練習の中で心を折られ、体もボロボロ、筋肉痛も怪我も治る時間は無く、寝ると朝練の時間になってしまうといって眠ることすら嫌になっていたあの夏。ですが、この夏合宿でどんなに辛いことも乗り越えられる力を付けました。この乗り越える力というのは仕事のなかでもこれからの私を成長させてくれると思っています。

東京支店 高橋風太



新元号の「令和」について、皆さまはどのような印象をおもちになったのでしょうか。私の語感では「令」には引き締まった鋭さが、対して「和」には柔軟な優しさがあり、シャープさと柔和さとをあわせもった、響きの良い元号だなという第一印象でした。

本号では、その「令和」とも関わりの深い中西進先生に取材をお願いしました。先生は2時間近くインタビューの間、一度も休憩を入れず、日本の言語文化について語り尽くされました。終始ユーモラスで優しい雰囲気ながらも、ここぞという所で菌切れよく鋭い言葉を発せられる姿に、「令和」に対して私が抱いた印象が自然と重なっていききました。

中西先生は、言わずと知れた『万葉集』研究の第一人者。新元号のもととなったことで、世間では『万葉集』ブームも起こっているようです。二十世紀の元号が、千年以上前の歌集から生み出される。ここに日本の言語文化の豊かさ、時代を越えた連続性が、象徴されていると思います。

(竜)

【投稿規定】

国語教育や国語の授業に関する具体的な提案、実践記録、教材研究など、投稿を募集しています。四〇〇字×六〜一二枚（九字×二六一行）程度。（紙幅等の都合により掲載できないこともあります。ご了承ください。）

国語教室 第111号
2019年10月15日発行

編集人 国語教室編集室
発行人 鈴木一行
印刷所 広研印刷株式会社
発行所 株式会社大修館書店
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1
電話 03(3868)2651(販売部) 03(3868)2291(編集部)

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp>